

Hokkaido International Exchange and Cooperation Center

# 2014 年報



公益社団法人  
北海道国際交流・協力総合センター  
HIECC/ハイエック

# 2014 年報



公益社団法人  
北海道国際交流・協力総合センター  
HIECC/ハイエック

# CONTENTS

■ HIECC (ハイエック) のあゆみ…………… 1	2 留学生受け入れの促進
■ 組織…………… 2	(1) 留学生修学支援の実施
■ 顧問・役員…………… 3	(2) 外国人留学生の受入促進
[2013年度の事業概要]	(3) 留学生等地域交流の実施
■ 理事会・通常総会の開催状況…………… 4	3 海外移住者への支援
■ 国際相互理解の推進…………… 5	(1) 留学生の受け入れ<南米圏交流>
1 講演会、シンポジウム等の開催	(2) 道人会活動の支援<南米圏交流>
(1) 国際理解講演会等の開催	4 各種交流事業への助成
(2) 北方圏講座の開催<北方圏交流>	(1) 国際交流事業資産による助成
(3) 国際シンポジウム・セミナーの開催	5 地域、諸団体との交流・連携
(北太平洋地域研究事業)	(1) 国際交流地域懇談会の開催
(4) 国際交流定例講演会の開催	(2) 実行委員会事業の推進
(5) 中小企業海外進出支援事業等	(3) 在北海道外国公館・通商事務所等協議
2 国際関係情報の収集・提供	会の運営及び事業の実施
(1) ホームページ(国際情報ネットワーク	■ 国際協力の推進…………… 24
システム)の運営	1 国際協力機構(JICA)研修事業への参画
(2) 季刊誌「Hoppoken(北方圏)」の発行	(1) 集団研修事業の実施
(3) 「2013年報」の発行	(2) 青年研修事業の実施
3 海外派遣研修	2 海外からの研修員の受入
(1) 海外派遣事業	海外技術研修員の受入(南米圏域交流)
(2) 高校生・世界の架け橋養成事業	3 国際協力情報の収集・提供
4 多文化共生の推進	国際協力情報紙「であい」の発行
(1) 北海道多文化共生地域づくり推進協議会	[資料]
(2) 多言語救急救命表示板シミュレーション研修	■ 2014年度収支予算
(3) 北海道在住外国人防災教育・訓練促進事業	平成26年度正味財産増減予算書…………… 26
(4) 災害支援多言語サポーターの募集	■ 2013年度収支決算
(5) 多文化共生ワークショップ	平成25年度正味財産増減計算書内訳表… 28
(6) 多文化共生啓発事業(講演会)	平成25年度貸借対照表…………… 30
(7) 多文化共生コーディネーター研修会	■ 2013年度来訪者…………… 31
(8) 世界の料理教室	■ 公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター定款…………… 32
(9) 国際交流ボランティアの登録・派遣	■ 北海道姉妹都市・友好提携自治体一覧… 36
(10) 留学生への物品支援	■ 道内外国公館/道内名誉領事館…………… 38
■ 国際交流の推進…………… 16	■ 在日大使館…………… 39
1 諸外国との交流の実施	
(1) スウェーデン学校交流(北方圏交流)	
(2) 北海道外国訪問団の受け入れ<南米圏交流>	
(3) 日韓新時代協力モデル創出事業	
(4) カルチャーナイト2013への参加	

# HIECC(ハイエック)の歩み

## 北方圏構想と北方圏センターの設立

昭和 46 (1971) 年、北海道開発の長期的な指針としてスタートした「第三期北海道総合開発計画」(~昭和 52 年)に「北方圏構想」が初めて盛り込まれました。北方圏構想の目的は、北海道と似た積雪寒冷の気候風土の中で、高い文化を培ってきた北米・カナダ・北欧諸国などとの交流を通じ、北海道の産業経済・生活・文化の向上を図り、北国の風土に根ざした北海道らしい地域づくりの推進を目指すものでした。この構想は第三期総合計画と同時に設立された「北方圏調査会」が母体となり推し進められ、同調査会は昭和 47 年 (1972 年) 1 月に社団法人としての認可を受け、さらに昭和 51 (1976) 年 11 月には「北方圏情報センター」を併設しました。これら 2 団体を発展的に改組した結果、昭和 53 (1978) 年 4 月に「社団法人北方圏センター」が発足し、以来、北方圏交流を主軸としたシンクタンク機能・データバンク機能・エクスチェンジ機能を持った全国でもユニークな国際交流団体として、広く事業を展開してきました。昭和 53 (1978) 年 7 月には「財団法人北方圏交流基金」を設立し、主に民間の北方圏交流事業を支援してきました。

## 国際交流・協力活動の拡大

1990 年代以降グローバル化が急速に進展し、国際社会の相互依存関係が一層強まるとともに、地域に対しての国際協力への期待が高まりました。北方圏センターは、北方圏地域との交流を継続しながらも、平成 7 (1995) 年 6 月に定款を一部変更し北方圏以外の地域に対して活動範囲の拡大を図りました。それを受け、平成 8 (1996) 年 4 月には、国際協力機構 (JICA) が途上国の技術研修員を受け入れるために設置した「国際センター」(札幌・帯広)の管理運営業務を受託するとともに、北海道庁所管の技術研修員の受け入れも開始しました。平成 10 (1998) 年 3 月には自治省 (現総務省) より都道府県・政令市に 1 団体のみ指定される地域国際化協会に認定され、北海道の国際交流・協力の総合的かつ中核的な役割を担うこととなりました。平成 10 (1998) 年 4 月に北海道青年婦人国際交流センター、平成 18 (2006) 年 7 月に (財) 北海道海外協会、平成 22 (2010) 年 4 月に (社) 北太平洋地域研究センター (NORPAC) をそれぞれ統合しました。

## 国際活動の総合的な拠点として

平成 20 (2008) 年に設立 30 周年の節目を迎え、北方圏センターの今後の方向性を検討する「あり方検討委員会」を設置し「あり方検討報告書~時代に即した活動をめざして」をまとめ、その中で北方圏センターを北海道における国際活動の総合的拠点と位置付けることとなりました。

平成 22 (2010) 年 5 月、通常総会において「北方圏交流基金」を「国際交流基金」に名称変更し、これまで北方圏に限定していた助成対象地域を全世界に広げました。また、学生等会員制度を新設し、会員の拡大を目指しました。

## 公益社団法人への移行

平成 23 (2011) 年 5 月の通常総会で、公益社団法人移行のための定款変更等が承認され、社団法人北方圏センターは、北海道知事からの認定を受け同年 8 月 1 日に公益社団法人に移行しました。同時に「社団法人 北方圏センター」を「公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター」(Hokkaido International Exchange and Cooperation Center) に改称し、「HIECC (ハイエック)」の略称で新たなスタートを切りました。

現在は、公益社団法人としての社会的責任を果たしつつ、世界各国との国際交流・協力活動を通じ、豊かで活力ある地域社会の実現を目指しながら、積極的に事業を展開しています。

北海道国際交流・協力総合センター年表 (略)

昭和46(1971)年 4月	北方圏調査会設立	平成16(2004)年 7月	財団法人北方圏交流基金を統合
昭和47(1972)年 1月	内閣総理大臣から社団法人許可	平成18(2006)年 7月	財団法人北海道海外協会を統合
昭和53(1978)年 4月	社団法人北方圏センターに改組	平成22(2010)年 4月	社団法人北太平洋地域研究センターの事業を承継
平成 8 (1996)年 4月	国際センターの管理運営を受託		
平成10(1998)年 3月	自治大臣が地域国際化協会として認定	平成23(2011)年 8月	公益社団法人に移行し、名称を北海道国際交流・協力総合センターに改称
	4月 青年婦人国際交流センターを統合		

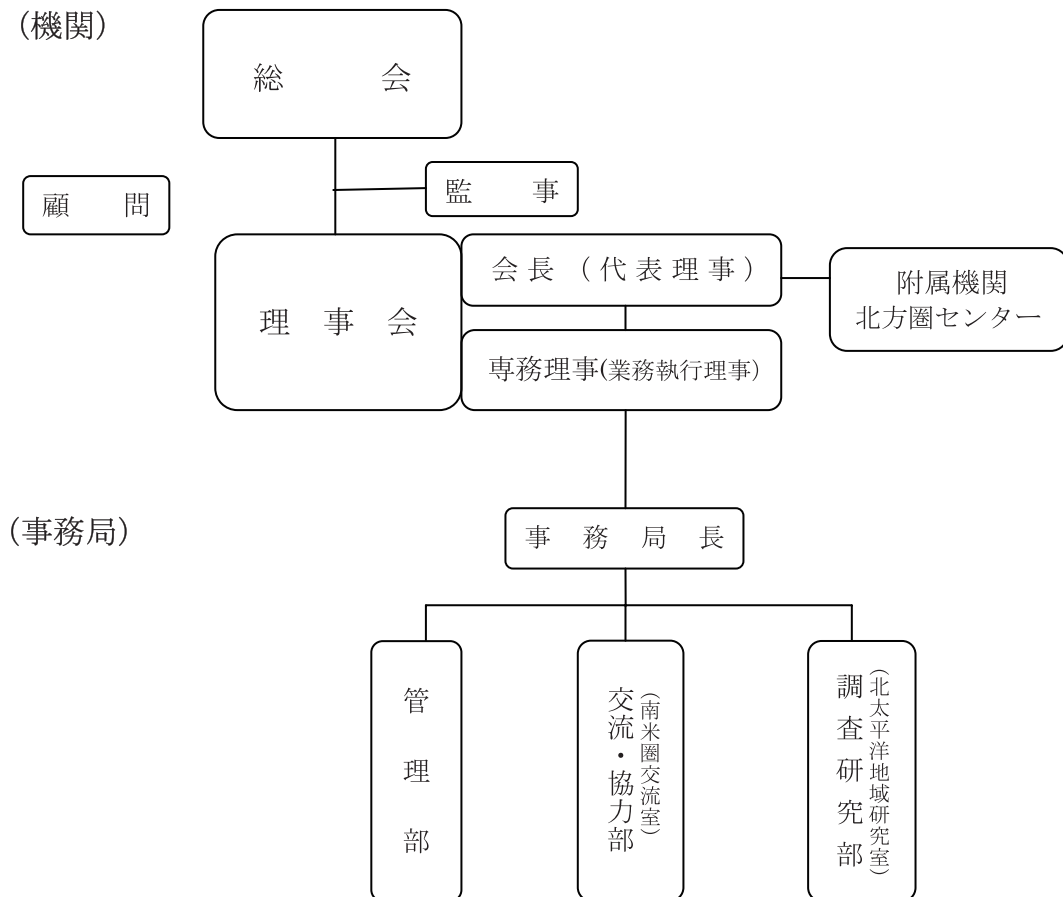


# 組 織

ハイエックは会員をもって構成される公益社団法人で、会員数は平成26年3月31日現在、680（法人・個人）です。ハイエックには、会員で構成される総会と、総会で選出された理事によって構成される理事会が置かれています。

会長（代表理事）、副会長、専務理事（業務執行理事）は、理事会で選定され、業務執行体制として組織を代表し業務執行を統括する会長と業務を分担執行する専務理事が置かれています。

業務を執行する組織として、事務局長を長とする事務局が置かれ、現在事務局には、管理、交流・協力、調査研究の3部が置かれています。



所在地 札幌市中央区北3条西7丁目（道庁別館 12階）

## ■国際交流サロン

海外からの来訪者から贈呈された記念品などを展示しており、道内外の国際交流・協力団体に関する資料等を閲覧できるスペースです。



## 顧問・役員

(平成26年6月18日現在)

### 顧 問

澤田和宏	国土交通省北海道開発局長
高橋はるみ	北海道知事
加藤礼一	北海道議会議長
田岡克介	北海道市長会会長
寺島光一郎	北海道町村会会長
伊藤義郎	日本国際連合協会北海道本部長
南山英雄	北海道国際交流・協力総合センター前会長

### 役 員

会 長	佐藤俊夫	札幌大学理事長
副 会 長	堰八義博	北海道銀行頭取
〃	高向巖	北洋銀行相談役
〃	中田和子	北海道女性団体連絡協議会会長
〃	藤田恒郎	北海道カナダ協会会長
副会長兼専務理事	高橋了	北海道国際交流・協力総合センター
理 事	阿部典英	北海道文化団体協議会会長
〃	荒木啓文	北海道商工会議所連合会専務理事
〃	井口光雄	北海道フィンランド協会会長
〃	井下佳和	在旭川ラトビア共和国名誉領事
〃	上田一郎	北海道大学理事・副学長
〃	大矢繁夫	小樽商科大学理事・副学長
〃	恩村裕之	北海道経済連合会専務理事
〃	北山憲武	北海道観光振興機構理事
〃	齊藤善也	毎日新聞社北海道支社支社長
〃	島田洋一	札幌テレビ放送(STV)社長
〃	須賀信昭	北海道文化放送(uhb)社長
〃	杉本拓	北海道スウェーデン協会会長
〃	鈴木美保	北海道国際女性協会名誉会長
〃	関口尚之	テレビ北海道(TVh)社長
〃	滝沢靖六	札幌貿易協会会長
〃	谷本辰美	北海道町村会常務理事
〃	樋泉実	北海道テレビ放送(HTB)社長
〃	中田博幸	札幌国際プラザ副理事長
〃	原田伸一	北海道新聞社常務取締役
〃	堀内一男	北海道ブラジル協会会長、北海道パラグアイ協会会長
〃	森本正夫	北海学園理事長
〃	横山直満	北海道市長会事務局長
〃	渡辺卓	北海道放送(HBC)社長
監 事	白髭俊穂	北海道体育協会専務理事
〃	山崎駿	山崎公認会計士事務所

## 理事会・通常総会の開催状況

1. **平成25年度第1回理事会**：平成25年5月23日（木）▽ホテル札幌ガーデンパレス

議事 ○平成24年度事業報告・決算を承認、通常総会の招集を決議

2. **平成25年度通常総会**：平成25年6月19日（水）▽ホテル札幌ガーデンパレス

議事 ○平成24年度事業報告・決算を承認

○平成25年度事業計画・予算の報告

○理事の補充選任～4名の理事を補充選任。

新理事	上田 一郎	北海道大学理事・副学長
	恩村 裕之	北海道経済連合会専務理事
	齊藤 善也	毎日新聞社北海道支社支社長
	樋泉 実	北海道テレビ放送（HTB）代表取締役社長



理事会で挨拶する南山英雄会長（当時）



総会全景

3. **平成25年度第2回理事会**：平成26年3月26日（水）▽ホテル札幌ガーデンパレス

議事 ○平成25年度事業の実施状況を報告

○平成25年度予算の補正の専決を報告

○平成26年度事業計画及び予算を議決

○公益法人の変更認定申請について

北方四島日本語研修事業（日本語研修招聘事業）の廃止に係る変更認定申請について承認。

○顧問の委嘱について～顧問の異動に伴う後任の顧問の委嘱を承認。

新顧問	加藤 礼一	北海道議会議長
	澤田 和宏	北海道開発局長

# 国際相互理解の推進

## 1 講演会・シンポジウムの開催

### (1) 国際理解講演会等の開催

会員をはじめ道民の国際理解を促進するため、講演会等を開催した。

- ① ハイエック設立35周年記念・辻井達一前顧問追悼講演会  
6月19日(水) ▽ホテル札幌ガーデンパレス  
テーマ：「これまでの北方圏交流の歩みと今後の交流のあり方」  
講師：北海道フィンランド協会会長 井口 光雄 氏



井口 光雄氏

- ② ハイエック設立35周年記念国際シンポジウム  
2月3日(月) ▽札幌プリンスホテル  
テーマ：「北海道の冬の国際観光振興を考える」  
基調講演：国際雪と氷の彫刻協会会長 ユハニ・リルベリ 氏  
パネリスト：北海道観光振興機構専務理事 北山 憲武 氏  
札幌観光協会専務理事 梶原 隆 氏  
昭和新山国際雪合戦実行委員会総括 庵 匡 氏  
モデレーター：札幌国際大学国際観光学科教授 市岡 浩子 氏  
共催：北海道観光振興機構、北海道フィンランド協会



ユハニ・リルベリ氏

- ③ 国際理解講演会  
2月17日(月) ▽キャリアバンク(株)セミナールーム  
テーマ：「リコノミクス形成の背景と特質」  
講師：大阪産業大学経済学部教授 王 京濱 氏  
共催：札幌孔子学院、北海道日中経済友好協会  
※第23回札幌大学孔子学院講演会として開催



王 京濱氏

### (2) 北方圏講座の開催〈北方圏交流〉

北方圏諸国の産業経済や生活文化等に関する蓄積を学び、地域づくりについての情報交換を図るため、他団体と連携し、6回の講座を開催した。

- 第1回 5月13日(月) ▽かでの2・7  
テーマ：「ハバロフスクの赤レンガ建築群と街並み」  
講師：ハバロフスク地方博物館総館長  
ニコライ・ルーバン 氏  
共催：北海道北方博物館交流協会・北海道文化財保存協会



ニコライ・ルーバン氏



- 第2回 6月1日（土）▽京王プラザホテル札幌  
テーマ：「大使の目を見たフィンランド」  
講師：前在フィンランド日本大使  
丸山 博 氏  
共 催：北海道フィンランド協会



丸山 博氏

- 第3回 6月19日（水）▽ホテルモントレーエーデルホフ札幌  
テーマ：「日本の医療とスウェーデンの医療」  
講師：医療法人鈴木内科医院理事長・院長  
鈴木 岳 氏  
共 催：北海道スウェーデン協会



鈴木 岳氏

- 第4回 9月4日（水）▽札幌プリンスホテル  
テーマ：「アルバータ州の魅力と文化」  
講師：カナダ・アルバータ州外務・政府間関係省副大臣  
ウー・パウ 氏  
共 催：カナダ・アルバータ州外務・政府間関係省、北海道



ウー・パウ氏

- 第5回 10月31日（木）▽京王プラザホテル札幌  
テーマ：「フィンランドの現状と日フィン関係の促進」  
講師：駐日フィンランド大使  
マヌ・ヴィルタモ 氏  
共 催：北海道フィンランド協会



マヌ・ヴィルタモ大使

- 第6回 1月29日（水）▽ホテルモントレーエーデルホフ札幌  
テーマ：「スウェーデン北部の歴史、生活、文化、  
経済、及び異文化理解」  
講師：小樽在住スウェーデン出身  
ホーコン・エリクソン 氏  
共 催：北海道スウェーデン協会



ホーコン・エリクソン氏

### (3) 国際シンポジウム・セミナーの開催（北太平洋地域研究事業）

北太平洋地域研究事業として、北東アジアの政治経済・外交に関係する重要なテーマについて海外の研究者等を招きシンポジウム・セミナーを開催した。

#### ① ハイエック設立 35 周年記念第 4 回北海道で考える北東アジア国際情勢シンポジウム

8月2日（金）▽北海道大学スラブ研究センター大会議室

テーマ：「北極圏と北東アジア～ユーラシア境界地域の新しいダイナミズム」

パネリスト：ラップランド大学                      ラッシ・ヘイニネン 氏  
サンクトペテルブルグ大学                      アレクサンドル・セルグニン 氏  
ロンドン大学    クラウス・ドッツ 氏  
カルガリー大学    ロバート・ヒューバート 氏  
日本大学    大西 富士夫 氏  
モデレーター：防衛研究所米欧ロシア研究室長 兵頭 慎治 氏



アレクサンドロ・セルグニン氏

#### ② ハイエック設立 35 周年記念国際経済シンポジウム

10月28日（月）▽京王プラザホテル札幌

テーマ：「新時代を迎えるモンゴル農牧業」

挨拶：駐日モンゴル国大使 S.フレルバータル 氏

講演：「モンゴル経済の現状と蒙日パートナーシップの未来」

講師：駐日モンゴル国大使館参事官 E・サラントゴス 氏

モデレーター：北海道地域農業研究所長 黒河 功 氏

パネリスト：モンゴル国工業・農牧業省 T・レンチンセンゲー 氏  
国際農林水産業研究センター企画調整部長 小宮山 博 氏  
(株)IHI スターアグリビジネス部長 小原 信孝 氏



S.フレルバータル氏

#### ③ 国際情勢セミナー

(i) 2月10日（月）▽京王プラザホテル札幌

テーマ：「モンゴルと北海道の協力の可能性」

挨拶：モンゴル国外務大臣 ルブサンワンダン・ボルド 氏

講師：モンゴル国工業・農牧業省顧問 ウルジフー・シジル 氏

共催：モンゴル国大使館、北海道

Partnership between Mongolia and Hokkaido



ルブサンワンダン・ボルド大臣

(ii) 2月20日（木）▽かでの 2・7

テーマ：「今後の日ロ関係をどう展望するか」

講師：在札幌ロシア連邦総領事 ワシリー・サープリン 氏

共催：北海道日本ロシア協会



ワシリー・サープリン総領事



④ ロシアビジネスセミナー

(i) 4月16日(火)▽北海道経済センター

テーマ：「ロシア極東と北海道～ビジネスの可能性」

講師：(株)FEC マネージメント代表取締役 丹治 宏剛 氏

共催：北海道商工会議所連合会、札幌商工会議所

(ii) 11月29日(金)▽北海道経済センター

テーマ：「ロシアビジネスパートナーシップの設置に向けて」

講師：(株)FEC マネージメント代表取締役 丹治 宏剛 氏

主催：北海道、札幌商工会議所、(株)FEC マネージメント

後援：ハイエック



丹治 宏剛氏

#### (4) 国際交流定例講演会の開催

来道外国人や道内在住の外国人をゲストに招いた講演や懇談を通じ、出身国の生活や文化などについて学び、異文化理解や相互理解を促進するため、北海道国際女性協会との共催により5回の定例講演会を開催した。

① 「国際交流の宝もの」(5月16日(木)▽かでの2・7)

講師：前北海道教育大学学長 村山 紀昭 氏

② 「日本文化を紹介する会」(6月14日(金)▽リンケージプラザ)

講師：森川 解子 氏

③ 「日本語学習者と会員の交流会」(7月17日(水)▽かでの2・7)

④ 「オーストラリアのちょっとおもしろい話」(11月13日(水)▽かでの2・7)

講師：在札幌オーストラリア領事 イアン・ブレイジア 氏

⑤ 「母の国・私の国」(1月14日(火)▽札幌プリンスホテル)

講師：ロシア料理&カフェ「ベチカ」店主 兵頭 ニーナ 氏

#### (5) 中小企業海外進出支援事業等

海外進出を狙う道内中小企業と対象国の情報を有する官民が集まり、情報共有する場を設け、研究会・調査報告会等を行った。

##### 北海道モンゴル経済交流研究会

7月12日(金)▽ハイエック特別会議室

テーマ：「ウランバートル・ゲル地区の市民生活の変化について」

「モンゴル現地でのビジネスの現状について」

コーディネーター：ハイエック研究員 吉村 慎司



研究会風景

## 2 国際関係情報の収集・提供

### (1) ホームページ（国際情報ネットワークシステム）の運営

インターネットを活用し、国際交流・協力等の情報を集約・蓄積し、広く発信した。ホームページではフェイスブックの活用を通じ、事業の事前周知や開催報告をタイムリーに発信するとともにハイエックの事業年報の英語版も掲載した。

ホームページトップ画面

世界と結ぶ。新しい世界に出会える。  
北海道国際情報ネットワーク

count 128512

General Information Annual Report (Eng) 会員専用ページ

● 組織概要 ● 入会のご案内 ● 情報公開 ● アクセス ● リンク集

公益社団法人  
北海道国際交流・協力総合センター  
HIECC/ハイエック  
(旧 社団法人北方圏センター)  
Hokkaido International Exchange and Cooperation Center

事業のご紹介

- 国際相互理解促進事業
- 国際交流促進事業
- 国際協力促進事業
- 調査研究/北太平洋地域研究事業  
研究員コラム等

図書/出版等

- HOPPOKEN
- であい
- 事業年報
- アーカイブ

インフォメーション

- HIECC国際交流助成金について
- 留学生サポーター国際ボランティア制度
- 北海道災害支援多言語サポーター募集
- 国旗利用について
- 多言語救急救命表示板設置カード
- 海外プロトコル、基本情報

お知らせ Information

2014.5.24 \* NEW!「留学生ふれあい交流inくりやま〜くりやま夏祭り参加と環境体験」に参加する外国人留学生、日本人大学生募集中です  
Foreign students wanted for local summer festival and environmental study trip in Kuriyama town

2014.5.13 \* お知らせ 平成26年度第2回北方圏講座「フィンランドセミナー〜フィンランドで学ぼう!〜フィンランド留学に関心がある大学生、専門学校生、高校生の留学手引き」16/13@がでる2・7

Find us on Facebook

公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター(ハイエック)

Like You like this.

2014/06/26 公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター

Facebook social plugin

(2) 季刊誌「Hoppoken (北方圏)」の発行  
(Vol.164(夏)号～167(春)号)

会員をはじめとした道民に、国際理解の促進に資する情報や、国際交流等の取り組みに関する情報を提供することを目的に、年4回、各1,500部発行。平成25年度はハイエック設立35周年記念として、民間の立場から北海道の国際交流に貢献してきた人々を取り上げる「国際交流貢献者列伝」の連載を開始した。

164 (夏) 号

集	ロシアの旧都に暮らして サンクトペテルブルクでの11カ月	真野 森作	7
特	サンクトペテルブルク留学記 世界遺産を歩いて		
	ロシアとゆかりの深い函館	鈴木 勝一	20
	発展するサハリン ロシアで突出	HIECC国際研究部 研究員 吉村 慎司	23
	ロンドンで暮らして⑭		
	英国のテレビ番組	日本銀行勤務 由紀子アングーゼ	26
	北海道から世界へー世界から北海道に		
	ロシア極東農業大の学生が野生動物の保護管理を学ぶほか		
	〈フットパスイatism⑥〉		
	スコットランド・ウエストハイランドウエイ	小川 浩一郎	38
	北海道シンクタンク協議会 平成24年度第2回まちづくり研究会		40
	第2回「北海道多文化共生地域づくり推進協議会」		44
	資源で飛躍 モンゴル経済	HIECC国際研究部 研究員 吉村 慎司	46
	第35回記念サツポロ・インターナショナル・ナイト 〜深めよう国際理解〜		49
	公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター 平成24年度第3回理事会、平成25年度第1回理事会 平成25年度通常総会		50
	スウェーデンの未来の動物飼育員に聞く スウェーデンの教育についてなど		53
	在北海道外国公館・通商事務所等協議会 平成25年度総会を開催		54
戦	新・北の美⑤⑨ 山内壮夫「ソノミの働かし」	北海道立法政実務 学芸部課長 中村 豊司	2
連	シリーズ 海外進出 飛躍する道内企業 第4回 世界に誇る地方発の技術	北見木材株式会社	32
	シリーズ 名譽領事に聞く⑫	ウラロンン連邦駐札幌名誉領事 栗林 延次さん	34
	旅情人生 第13回 他人のため	小樽山 博	36
	北のさかな「ヒルカイムール貝」	美術家 阿部 典英	62
SALON	HIECCだより 第1回北方圏講座「ハロフスタの赤レンガ建築群と街並み」ほか		56
編集後記			61

165 (秋) 号

集	中・露・朝のはざまにゆれて 「最果ての街」中国・理春の素顔	毎日新聞 米村 耕一	7
特	IT欧州の中核として躍進するロンドン	フレイシャー・外島 美紀子	18
	ロンドンで暮らして⑮		
	ロイヤルベビー誕生に沸く英国	日本銀行勤務 由紀子アングーゼ	24
	北海道から世界へー世界から北海道に		
	イランカラフテ・キャンペーン始まるほか		
	〈フットパスイatism⑦〉		
	アイルランド・ウィックローウエイ	小川 浩一郎	30
	平成25年度自治体国際協力促進事業(モデル事業)	HIECC 交流協力部	34
	日韓新時代協力モデル創出事業報告		
	北海道シンクタンク協議会 平成25年度第1回まちづくり研究会 「報告」北海道銀行のロシア極東アグリビジネスの展開		36
	活気づく東川町の国際化 ラトビア交流、日本語研修など	HIECC国際研究部 研究員 吉村 慎司	38
	HIECC事業報告 タイ王国(バンコク)チェンマイで留学生受入促進事業の実施について		40
	HIECC設立35周年記念事業 第4回「北海道で考える北東アジア国際情勢シンポジウム」報告	平成25年8月1日(金) 於北海道大学スラブ研究センター	44
	第3回「北海道多文化共生地域づくり推進協議会」 ニセコエリア視察	HIECC 交流協力部	47
	目で見たカザフスタンの経済成長	HIECC国際研究部 研究員 吉村 慎司	52
	多文化共生の現場から〜市立札幌大通高校	HIECC国際研究部 森内 壮夫	55
戦	新・北の美⑥⑩ 白江正夫「陸橋(妙見市場)〜官川美樹(刻一翔)」	市立小樽美術館 主査・学芸員 星田 七重	2
連	旅情人生 第14回 独りぼっち	小樽山 博	22
	シリーズ 名譽領事に聞く⑬	在札幌リトアニア共和国名誉領事 藤井 英勝さん	32
	国際交流貢献者列伝① フィンランドと40年の絆	北海道フィナンランド協会会長 井口 光雄さん	49
	北のさかな「ヤナギノマイルダック」	美術家 阿部 典英	62
SALON	HIECCだより レットウィック音楽学校ウァイオリンコンサート ほか		58
編集後記			61

特集	
似て違つて違つて似ている？ 韓国の素顔	菅沼新太郎 西脇 真一 16
ロンドンで活躍する道産子たち	フリージャーナリスト 外島 美紀子 7
ロンドンで暮らして⑧	日本総務事務 由紀子アンダーセン 24
移住10年、変化の軌跡	北海道から世界へ―世界から北海道に 本場の中華料理に挑戦ほか
〈フットバスイズム⑧〉	ロシア・南サハリン 小川 浩一郎 30
設立35周年記念事業 国際経済シンポジウム	『新時代を迎えるモンゴル農牧業』 36
北欧交流事業 / 北欧大学機関連携推進事業	オウル応用科学大学・小樽商科大学の相互交流
『境界地域における漁業問題・国境離島の地域振興』	境界地域研究ネットワークJAPAN・五島セミナー イナモト 高田 喜博 42
第4回北方圏講座	アルバータDAYアルバータ州の魅力と文化 44
第5回北方圏講座	フィンランドの現状と日フィン関係の促進 45
在北海道外国公館・通商事務所等協議会主催事業	「インターナショナルウィーク2013」
北東アジア研究交流ネットワークフォーラム	多文化共生の現場から 一般社団法人札幌大学ウレシパ・クラブ 49
新・北の美⑥①	三岸好太郎「スポーツ 選手 跳躍」 北海道立歴史民俗学館 吉名 直子 2
旅情人生 第15回	顔のいい男 小樽山 博 22
シリーズ 名譽領事に聞く⑭	シリーズ 海外進出 飛躍する道内企業 第5回 シリーズ 海外進出 飛躍する道内企業 第5回 シリーズ 海外進出 飛躍する道内企業 第5回
国際交流貢献者列伝②	人を喜ばせて25年 正和電工株式会社 エツさん 34
北のさかな / アンコウII 鯨鯨	北のさかな / アンコウII 鯨鯨 美輪 典英 62
SALON	HI-ECCCだより 滝川市の水口正之さん モリル人文大学 大学院名誉教授 松野 ほか 61
編集後記	61

特集	
ドイツ「メルヘン王国」の今	北海道から世界へ―世界から北海道に カナダの高校生と交流 ほか
ロンドンで暮らして⑨	日常生活のエチケット 由紀子アンダーセン 24
世界の祭典へと育った「さっぽろ雪まつり」	〈フットバスイズム⑨〉日本のフットパス 小川 浩一郎 36
北海道の冬の観光振興を考える	設立35周年記念事業 国際経済シンポジウム 北海道の冬の観光振興を考える
平成25年度第2回まちづくり研究会	北海道における新しい観光振興のあり方 観光振興パラダイムの転換
平成25年度北海道海外派遣事業に参加して	私の夢の探究 / 出会いが私に与えたもの 北海道大学 人文部 佐藤 仁美 44
台湾観光客の背中を押してきた	HTB「北海道アワー」 小樽山 博 46
在北海道外国公館・通商事務所等協議会	2014年新年交礼会 49
国際セミナー「モンゴルと北海道の協力の可能性」	第6回北方圏講座 「スウェーデン北部の歴史、生活・文化、経済、および異文化理解」 55
第23回札幌大学孔子学院講演会	リノミクス形成の背景と特質 56
『多文化共生と国際交流 / 地域活性化の視点から』	新・北の美⑥② 西村計雄「ふるさと」 西村計雄記念美術館 学芸員 磯崎 亜矢子 2
旅情人生 第16回	食べて瘦せたい。 小樽山 博 20
シリーズ 名譽領事に聞く⑮	シリーズ 海外進出 飛躍する道内企業 第6回 シリーズ 海外進出 飛躍する道内企業 第6回 シリーズ 海外進出 飛躍する道内企業 第6回
国際交流貢献者列伝③	尽きることはない好奇心 日東建設株式会社 伏木 忠子さん 52
北のさかな / ホツキII 北寄貝	北のさかな / ホツキII 北寄貝 美輪 典英 62
SALON	HI-ECCCだより 第36回サッポロ・インターナショナルナイト ほか 61
編集後記	61

### (3) 「2013年報」の発行

2013年度(平成24年4月1日～25年3月31日)に実施した事業の概要などをとりまとめた「2013年報」を発行した。



### 3 海外派遣研修

#### (1) 海外派遣事業

海外の地域事情や関係機関の視察、関係者及び大学生との意見交換等を通じて、国際的視野をもって地域づくりに貢献できる人材を育成するため、道内各地の青年6名をベトナム及びインドネシアに派遣した。ベトナムでは、JICAや日系ビジネス支援施設、障害者支援団体やストリートチルドレン支援団体などNGOを訪問。インドネシアでは、日本大使館やJETRO、日系工業団地、現地の大学を訪問した。

派遣期間：11月3日（日）～11月10日（日）

派遣先：ベトナム、インドネシア

参加者：社会人、学生など6名



ベトナム国ホーチミン市にて子供たちと交流

#### (2) 高校生・世界の架け橋養成事業

##### ① 高校生・アジアの架け橋養成事業

将来の北海道を担う高校生を開発途上国に派遣し、格差や環境問題など、地球規模の問題等を身近に考えられる現地研修を行うとともに、帰国後は道内の中学校や高校で現地での経験を報告し、積極的に仲間や社会と連携できる人材の育成を図った。

派遣期間：8月3日（土）～8月11日（日）

派遣先：ラオス

参加者：高校生10名、スーパーバイザー等4名

その他：事前研修2回、事後研修2回、報告会7回（中学・高校、道民向け）



ラオス国ヴィエンチャン首都区サイターニー郡での田植えを体験



道民向け報告会

##### ② 第4回済州青少年フォーラム

道内の高校生3名を第4回済州青少年フォーラムに派遣し、世界に共通する社会問題について、9カ国19地域から参加した同世代の若者たちとパネル討論や文化体験等を通じた交流の機会を提供し、人材の育成を図った。

派遣期間：10月24日（木）～10月28日（月）

派遣先：韓国・済州道

参加者：高校生3名



済州島でのグループディスカッションの様子

## 4 多文化共生の推進

### (1) 北海道多文化共生地域づくり推進協議会

外国人居住者が年々増加し、地域社会を構成する一員となりつつある現状を踏まえ、道民と外国人居住者が互いの文化や生活習慣などを相互に理解・尊重し、ともに地域の発展・活性化に貢献することができる多文化共生社会の実現に向け、課題や解決方策を検討するため協議会を開催した。

- ① 講演及び意見交換 講師：多文化共生センター大阪 代表理事 田村太郎 氏  
4月19（金）日▽札幌プリンスホテル
- ② 意見交換 7月29日（月）▽ホテルニセコアルペン（倶知安町）  
視察及び意見交換 7月30日（火）▽倶知安町役場、ニセコ町役場ほか
- ③ 「協議会における議論の記録」とりまとめ2月28日（金）▽ハイエック会議室



在住外国人との意見交換（ニセコ町役場）



会議の様子（ハイエック特別会議室）

### (2) 多言語救急救命表示板シミュレーション研修

当センターで作成した「多言語対応救急救命表示板」及び「処置カード」の使用について、外国人と救急救命士・隊員が救急時に円滑なコミュニケーションを図るため、北海道消防学校で研修に参加している救急救命士等に対し、在住外国人の協力を得て表示板使用のシミュレーション研修を行った。

- ① 10月4日（金）▽北海道消防学校 参加者：外国人4名 消防学校 約60名
- ② 12月4日（水）▽北海道消防学校 参加者：外国人6名 消防学校 約60名



掲示板を使用しコミュニケーションを図る救急隊員（江別市）



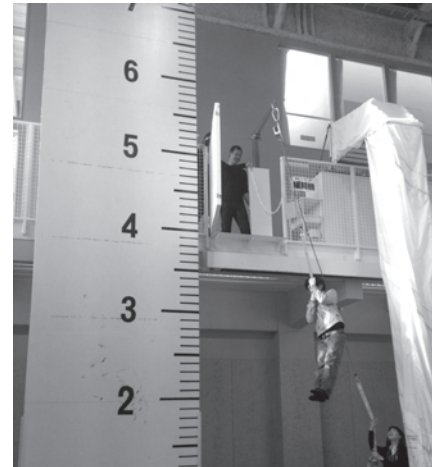
### (3) 北海道在住外国人防災教育・訓練促進事業

外国人留学生等を対象に、地震などの自然災害について正しい知識を習得するとともに、災害発生時における必要な情報収集や取るべき行動についての訓練などを行った。

- ① 11月9日（土）▽小樽商科大学 参加者：留学生 28名
- ② 11月23日（土）▽室蘭工業大学 参加者：留学生 30名



災害図上訓練で避難ルートを考える留学生（小樽商科大学）



避難器具を体験（室蘭工業大学）

### (4) 災害支援多言語サポーターの募集

災害発生時に被災した外国人を言語面で支援する体勢を整えるため、ボランティアのサポーターを募集し、登録した。

- 登録者 46名（3月31日（月）現在）

### (5) 多文化共生ワークショップ

（公財）札幌国際プラザなどと共催し、災害時に外国人が直面する課題等について考える、ワークショップを開催した。

講演及び避難所運営ゲーム（HUG）の体験

講師：（公財）仙台国際交流協会事業企画課 主任  
菊池 哲佳氏

ファシリテーター：北海道大学大学院工学研究院 准教授  
森 太郎氏

2月23日（日）▽札幌国際プラザ 参加者：30名

共催：（公財）札幌国際プラザ



避難所運営ゲームを体験（札幌国際プラザ）

### (6) 多文化共生啓発事業（講演会）

北海道の高齢化が全国を上回るスピードで進む中、外国人も地域社会を構成する一員として、地域の発展・活性化に資する多文化共生社会の実現に向けた講演会を開催した。

12月9日（月）▽苫小牧市役所会議室 参加者：35名

テーマ：「国際交流と多文化共生 ～ 地域活性化の視点から」

講師：多文化共生センター大阪 代表理事 田村 太郎氏



講演会の様子（苫小牧市）

## (7) 多文化共生コーディネーター研修会

道内の多文化共生社会の実現を目指すとともに、今後の地域づくりの参考としてもらうため、事業担当者の研修会を行った。

3月20日（木）▽旭川国際交流センター

講師：多文化共生マネージャー全国協議会 監事

志渡澤 祥宏 氏 ほか

参加者：17名（自治体、国際交流団体、NPOなどの職員）



グループディスカッションの様子

## (8) 世界の料理教室

外国人と道民が交流の場を持ち、諸外国の料理を通じてその国の伝統や食文化の一端に触れるとともに相互理解を深めるため、他団体と連携して開催した。

- ① 南米料理講習会（10月13日（日）▽八紘学園北海道農業専門学校 共催：北海道ブラジル協会）
- ② ロシア料理講習会（11月7日（木）▽旭川市永山公民館 共催：日ロ文化交流協会「リャビーナ」の会）
- ③ フィンランド料理講習会（2月22日（土）▽札幌エルプラザ 共催：北海道フィンランド協会）



ロシア料理教室（旭川市）



フィンランド料理教室（札幌市）

## (9) 国際交流ボランティアの登録・派遣

国際交流事業に協力するボランティアの登録を行い、各地域や交流団体等の事業に派遣し、活動を支援した。

- 登録者：50人（3月31日（月）現在）
- ボランティア（英語）の派遣回数：3回

## (10) 留学生への物品支援

道内の関係者などから外国人留学生に対して提供いただける生活物品を登録し、大学を通じて支援の斡旋を行った。

- 登録数：9件（3月31日（月）現在）

# 国際交流の推進

## 1 諸外国との交流の実施

### (1) スウェーデン学校交流（北方圏交流）

平成18年9月にスウェーデンで実施された「HOKKAIDO STYLE 2006」を契機に、東スウェーデン地域から高校生等を受け入れる交流事業を進めてきており、今回は動物飼育高等専門学校から学生2名を受け入れ、札幌市円山動物園などでのインターンシップのほか、道内の高校でも交流を行った。

受入期間：5月11日（土）～6月2日（日）

受入機関：札幌市円山動物園ほか

参加者：ヒンメルスタルンズ高等専門学校 ジェニファー・ビルグレンさん、ペル・ニルソン君

交流先：札幌国際情報高等学校、とわの森三愛高等学校



動物飼育を体験（円山動物園）



高校での交流の様子（とわの森三愛高校）

### (2) 北海道外国訪問団の受け入れ〈南米圏交流〉

北海道からアルゼンチンへの移住者の子弟6名の訪問団を受け入れ、父祖の地について認識を深めるとともに、道民との交流や地域の視察を通じ、友好親善と相互理解を図った。

受入期間：1月30日（木）～2月6日（木）▽札幌市、北広島市など



南米交流団体関係者とともに（ハイエック特別会議室）



### (3) 日韓新時代協力モデル創出事業

高齢化社会に対応した韓国との特色ある交流・協力を進めるため、道内で誕生したローカルスポーツを韓国で紹介するとともに、意見交換を行った。

① 韓国訪問団受入：7月21日（日）～25日（木）

参加者：慶尚南道生活体育会、パークゴルフ連合会、バレーボール連合会 各役員等 26名  
内 容：パークゴルフ指導（幕別町）、ミニバレー指導（音更町、帯広市）



ミニバレー指導（帯広市・音更町）



参加者全員で記念写真

② 北海道訪問団派遣：11月6日（水）～8日（金）

参加者：日本パークゴルフ協会、北海道ミニバレー協会など7名  
内 容：パークゴルフ指導、ミニバレー指導（いずれもソウル特別市）



パークゴルフ指導（ソウル特別市）

### (4) カルチャーナイト2013への参加

施設の夜間解放を通じて道民と企業と行政が協働し地域文化との触れ合いを深めるカルチャーナイトに参加し、参加者に外国人との交流の場を設け、ハイエックの活動を紹介した。

7月19日（金）▽ハイエック（参加者：約200名）

企 画：世界の遊びを体験しよう！・世界の民族衣装を着てみよう！・世界の若者と話そう！



ワールドカフェで参加者同士が交流（ハイエック特別会議室）

## 2 留学生受け入れの促進

### (1) 留学生修学支援の実施

道内大学における外国人留学生受け入れ促進を支援するため、外国人私費留学生に修学助成を行うとともに、助成金受給者を「外国人サポーター」として登録し、地域の交流事業への参加等を促進した。

#### 修学助成の概要

支給対象者：私費留学生（大学院生など）

支給対象人数：50人

支給額：月額20,000円

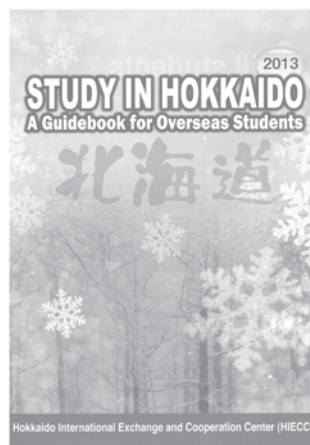
### (2) 外国人留学生の受入促進

外国人留学生の受け入れを促進するため、海外の関係機関や大学・学生等に対し、道内大学のプロモーションを行った。

- ① プロモーションサイトの運営 (<http://study-hokkaido.com>)、プロモーションサイトの多言語化（中国語）



プロモーションサイトのトップページ



留学ガイドブック

- ② 現地プロモーションの実施・留学ガイドブックの作成、配布
- ③ タイ王国で開催された日本留学フェア（日本学生支援機構主催）に参加し、北海道や大学の資料配付を行った。（学生等へのプロモーション）  
8月30日（金）マチェンマイ会場 ブース来場者：約250名  
9月1日（日）マバンコク会場 ブース来場者：約300名



タイでのプロモーション（バンコク・チェンマイ）

④ 大学や大使館等関係機関との連携推進

タイの大学や日本大使館など関係機関を訪問し、道内大学のPR及び関係者との意見交換を行った。

8月28日（水）▽在タイ日本大使館（大使）、チュラロンコン大学（副学長）

8月29日（木）▽チェンマイ大学（学長）、チェンマイ総領事館（総領事）など



チェンマイ大学学長を訪問し北海道の大学をPR



佐藤在タイ日本国大使へ留学生受け入れ促進の協力要請

⑤ 道内関係大学への訪問

道内関係大学を訪問し、外国人留学生の受け入れ促進要請するとともに意見交換を実施した。

2月13日（木）▽室蘭工業大学（副学長ほか）

2月14日（金）▽はこだて未来大学（副学長ほか）

2月25日（火）▽帯広畜産大学（企画・国際室長ほか）

2月26日（水）▽北見工業大学（国際交流センター長ほか）

**(3) 留学生等地域交流の実施**

北海道内の大学で学ぶ留学生 10カ国・地域 29名を幌加内町に案内し、「世界そばフェスタ」に参加して地域住民との交流をおこなうとともに、そば打ち体験や町職員からのレクチャーを通して地域づくりの手法について理解を深めた。

(9月1日（月）、2日（火）▽幌加内町役場 参加者：留学生 29名)



守田幌加内町長と記念撮影（祭会場）



そば生産量日本一の幌加内でそば打ち体験（そば道場）



### 3 海外移住者への支援

#### (1) 留学生の受け入れ〈南米圏交流〉

ブラジル道人会からの留学生を受け入れ、1年間にわたり教育振興や相互文化の交流及び親善に寄与するための研修などを実施し、北海道と移住国との架け橋の役割を担う人材の育成を図った。

留学生：嶋田 ブルーノ 静也

期 間：平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

受入先：北海商科大学大学院商学研究科

### 交換留学生・大学院研究生



修了証を受け取った嶋田さん

#### (2) 道人会活動の支援〈南米圏交流〉

北海道出身者で組織する道人会の運営や、移住者への情報提供活動などを支援した。

(社) ブラジル北海道協会、全パラグアイ北海道人会連合会、在亜（アルゼンチン）北海道人会、サハリン北海道人会

### 4 各種交流事業への助成

#### (1) 国際交流事業資産による助成

世界諸地域との交流を促進し、北海道の生活文化や産業経済の発展に寄与するため、国際交流事業資産の運用益により、国際交流団体等が実施する各種交流事業 14 件（文化 5、交流 7、スポーツ 1、催事 1）に対し、計 353 万円を助成した。

#### 平成 25 年度 国際交流基金助成実績

区分	助成対象事業名	主催者	助成額(千円)	場所	時期	事業概要
文化	‘アイヌ&サーミ’カルチャーフェスティバル ノルウェー公演事業	‘アイヌ&サーミ’カルチャーフェスティバル実行委員会	300	札幌市	7月	アイヌ民族とヨーロッパ北方民族サーミとの音楽・文化交流を通じて、相互理解を深めるとともに北海道・札幌の文化的財産であるアイヌ音楽をはじめとする民族文化の普及・発展を目指した。
	第5回 日露交流演奏会	システイーナ札幌室内合奏団	200	札幌市	7月	北海道とサハリン州との友好関係を基に、サハリン州唯一の室内管弦楽団と交流演奏会を開催し、市民レベルでの友好親善を深めた。
	アイヌ音楽を中心としたフィンランドとアメリカのミュージシャンを招いたライブによるシンポジウム	フォールディング・コスモス実行委員会	200	札幌市	9月	民族楽器奏者として活躍するフィンランドとアメリカのミュージシャンを招きアイヌ音楽をテーマとした民族楽器の共演によるライブを行うとともに、北海道の名付け親である松浦武四郎や各国に共通したテーマである先住民族についてのシンポジウムを行なった。
	世界そばフェスタ in ほろかない	世界そばフェスタ in ほろかない実行委員会	300	幌加内町	9月	幌加内町で10年ぶりに開催するフェスタで、世界のそば料理を出展し紹介するとともに道内留学生も一緒に参加して交流を行った。
	第6回 日台友好合唱会	日台友好合唱会実行委員会	200	札幌市	10月	台湾から合唱団を招聘し、合同合唱会を開催。合唱を通じて国際理解を促進した。

交 流	ソウルフレンドシップフェア 2013 釧路訪問団	ソウルフレンドシップフェア 2013 釧路訪問団実行委員会	300	ソウル市	5月	ソウル市で開催され多文化国際イベントである「ソウルフレンドシップフェア」に「北海道くしろ蝦夷太鼓保存会」を派遣し、地方レベルで友好交流の強化や、釧路地方への観光誘客を図った。
	北海道・ロシア極東交流事業 (青少年「体験・友情」の船、市民交流会議)	北海道・ロシア極東交流事業実行委員会	500	サハリン州	6月 8月	① 第8回市民交流会議 北海道姉妹都市をはじめとする北海道及びサハリン州の市町村、社会友好団体、食品関係企業が一堂に集まり、「サハリン・北海道『食産業の振興』に向けて」をテーマに会議を開催した。 ② 第15回青少年体験・友情の船 サハリン州の青少年62名を受入れ、国境を越えた青少年同士の友情を育むため、平和の誓い、文化・スポーツ交流等を実施し、友好親善と相互理解を深めた。
	韓国・ソウル－札幌相互・国際交流事業	公益財団法人北海道演劇財団	400	ソウル市	9月	相互交流の一環として、(公財)北海道演劇財団附属札幌座公演を韓国・ソウルで上演して、演劇を通じた国際交流の広がり進化を目指した。
	サケ学習国際交流カナダ研修団受入事業	北海道サーモン協会	300	札幌市	10月	カナダBC州から小中学生研修団(12名+引率3名)を受け入れ、サケや河川保護の実態を学ぶとともに、ホームステイや学校訪問など交流を通じて国際交流や相互理解を深めた。
	国際経済セミナー & 交流会	北海道日中友好協会	150	札幌市	11月	日中両国の地域間や民間の交流を着実に進め、日中間の相互理解と友好交流を促進し、今後の北海道との観光文化や物産・環境など具体的な交流の発展につなげていくためセミナー・交流会を開催した。
	姉妹都市提携20周年記念 平成25年度ジュニア大使訪問団派遣事業	一般社団法人滝川国際交流協会	250	スプリングフィールド	11月	滝川市の姉妹都市である米国マサチューセッツ州スプリングフィールド市等に中高生6名を派遣し、ホームステイや学校訪問、慈善事業団体での研修を通して、生活習慣や文化の違いなどを体験し、国際的視野を持った人材の育成を行った。
	遊牧の民の調べコンサート in 北海道	NPO法人北方アジア文化交流センターしゃがあ	150	道内各地	3月	モンゴルから2名の奏者を招聘し、道内の小学校などの教育機関や福祉施設などでモンゴル民族、カザフ民族の遊牧民文化を紹介することを目的としたコンサートを開催した。
ス ポ ー ツ	第26回昭和新山国際雪合戦大会開催事業	昭和新山国際雪合戦実行委員会	200	壮瞥町	2月	「雪合戦」をスポーツとして再生し、冬の地域活性化や冬期間の観光振興の促進を図るとともに、北欧諸国などへの「雪合戦」の普及を目指した。
催 事	国際協力フェスタ2013	北海道NGOネットワーク協議会	81	札幌市	10月	道内のNGOが協働して国際協力パネル展や活動紹介ブース出展のほか、ステージパフォーマンスやトークショーを実施した。
合 計		12件	3,531			

## 5 地域・諸団体との交流・連携

### (1) 国際交流地域懇談会の開催

地域で国際交流・協力活動を行っている市町村や国際交流団体等との連携を深めるため、道内各地で関係者と情報交換や今後の活動における連携などについて意見交換を行う懇談会を開催した。

[① 6月26日(水)▽北海道檜山振興局会議室 ② 8月21日(水)▽釧路市観光国際交流センター ③ 10月23日(水)▽稚内総合文化センター ④ 1月22日(水)▽小樽市生涯学習プラザ]



会議の様子(小樽市)

### (2) 実行委員会事業の推進

関係機関や関係団体が共同して開催する国際交流事業等の実行委員会に参画し、事業の実施に協力した。

#### ① 北海道・ロシア極東交流事業

北海道とサハリン州との友好を深めるため、「市民交流会議」及び青少年を対象とした「体験・友情の船」事業の実行委員会に参加し、事業の円滑な実施に協力した。

- ・市民交流会議(6月13日(木)▽ウラジオストク市ほか)  
テーマ:「サハリン・北海道『食産業の振興に向けて』」
- ・体験・友情の船(7月31日(水)～8月7日(水)▽コルサコフ市ほか)



市民交流会議(ユジノサハリンスク市)

#### ② 第36回サッポロ・インターナショナルナイト(平成24年度より共催)

外国人留学生と日本人の大学生や高校生らが「共に生きるために、語ろう!」のテーマの下ディスカッションや交流を行った。

12月15日(日)▽京王プラザホテル札幌/かでの2・7 参加者: 470人 30カ国

第1部: グループ・ディスカッション(以下、テーマ)

- A. ボランティアは顔の見える国際交流
- B. 将来の夢と実現への道を語ろう!
- C. 若者よ、自分の足で、目で、世界を見よう!
- D. 世代を超えて協力する社会を!
- E. 戦争・紛争のない世界を目指して
- F. 地球上の全ての子どもに十分な食物を

第2部: 交流パーティー

ディスカッションの成果報告に続き、留学生によるパフォーマンス、参加者全員による合唱など、相互理解や親睦を深めた。



民族舞踊を披露する中国ウイグル族の学生(京王プラザホテル札幌)

### (3) 在北海道外国公館・通商事務所等協議会の運営及び事業の実施

道内に開設されている総領事館、領事館、通商事務所等の相互の連携と情報の共有を図り、各国と北海道との間で経済、教育、文化など様々な分野の交流を促進することを目的に設立された「在北海道外国公館・通商事務所等協議会」の事務局を務め、総領事館とともに道民と外国公館の架け橋となる活動を行った。

協議会構成員: 総領事館等6、在道名誉領事館21、賛助会員4(平成26年3月末現在)



## 【活動概要】

### ① 総会

在札幌大韓民国総領事館総領事の鄭煥星会長をはじめ、各国の総領事等のほか名誉領事館から9名の名誉領事が出席した。

5月29日（金）▽札幌商工会議所（特別会議室A）



総会の様子（札幌商工会議所）

### ② 学校訪問事業

各総領事館の総領事などが、道内中学校・高等学校等の学校現場に赴き、自国の文化や、総領事館の業務などについて紹介することにより、生徒たちの国際的な視野を広め、生徒の異文化等に対する理解を深めた。

#### ◎学校訪問

- i 室蘭清水丘高等学校 ～ ロシア総領事館（9月9日（月））
- ii 滝川西高等学校 ～ 韓国総領事館（9月25日（水））
- iii 札幌清田高等学校 ～ 各公館（アメリカを除く）へ訪問（11月15日（金））  
※ アメリカ総領事館が同校へ訪問（11月29日（金））
- iv 札幌南ヶ丘中学校 ～ アメリカ総領事館、ロシア総領事館（12月3日（日））

#### ◎イングリッシュキャンプ（道教育庁主催事業）での講演

- i 中国総領事館（8月25日（日））
- ii アメリカ総領事館（11月9日（土））

### ③ インターナショナルウィーク

総領事館等開設している国々を道民に身近な外国としてPRするため、各国の経済事情や文化を紹介する展示・PR展やパフォーマンスなどを行った。道民の参加者は延べ6,000名を超えた。

#### ◎展示・PR

期 間：10月12日（土）～17日（木）  
会 場：札幌駅前地下歩行空間 北3条交差点広場  
参加者：総領事館等（6ヶ国）、名誉領事館（8カ国）

#### ◎文化紹介パフォーマンス

期 間：10月12日（土）～14日（月）  
会 場：札幌駅前地下歩行空間 北3条交差点広場  
参加者：総領事館等（7ヶ国）



オープニングセレモニー



各国の展示を閲覧する来場者



文化紹介パフォーマンス：韓国のサムルノリ（何れも札幌市地下歩行空間）

### ④ 新年交礼会

協議会の構成員である各国外国公館の総領事や名誉領事はもとより、北海道知事、北海道経済産業局長をはじめとする官公庁、北海道商工会議所連合会会頭など道内経済界や大学、報道機関の代表者、さらには国際交流・協力団体などの代表の皆様方の参加により、新年交礼会を開催した。

1月15日（水）▽札幌プリンスホテル 国際館パミール「屈斜路」

主催者：在北海道外国公館・通商事務所等協議会

参加者：65名（自治体、国際交流・協力団体、経済団体ほか）



鄭煥星会長による主催者挨拶



高橋はるみ知事による来賓挨拶

# 国際協力の推進

## 1 国際協力機構（JICA）研修事業への参画

### (1) 集団研修事業の実施

JICA 北海道国際センター（札幌）が実施する研修事業5本を受託し、研修実施のためのコーディネートを行った。

- ① 課題別研修「環境保全型農業技術の普及拡大手法」  
（受け入れ期間：6月18日（火）～6月27日（木））
- ② 課題別研修「上水道技術者」  
（受け入れ期間：7月8日（月）～9月17日（火））
- ③ 地域別研修「森林認証制度の構築」  
（受け入れ期間：9月17日（火）～9月26日（木））
- ④ 国別別研修「モロッコ新生児マスクリーニングシステム普及支援」  
（受け入れ期間：2月3日（月）～2月27日（木））
- ⑤ 国別研修「マレーシア漁業施設および漁業組合管理技術」  
（受け入れ期間：2月17日（月）～3月6日（木））

### (2) 青年研修事業の実施

JICA 北海道（札幌）の青年研修として、カザフスタン及びキルギスの若手行政職員13人を受け入れ、地方行政制度・施策・公共サービス等に関する研修を、北海道・札幌市・小樽市・栗山町等の協力を得て研修を実施した。

終了時には、研修の成果発表が行われ、研修で習得したことを自国で今後どう活かすかについて様々な提案がなされた。

青年研修「中央アジア・コーカサス混成／地方行政コース」

（受け入れ期間：平成26年1月30日（木）～2月12日（水））



札幌市水道局で



下川町の木材工場での実地研修



(独) 国立成育医療研究センターで



釧路市水産加工振興センターでの実地研修



JICA 北海道（札幌）での研修

## 2 海外からの研修員の受入

### (1) 海外技術研修員の受け入れ（南米圏域交流）

移住者支援及び移住国における人材育成や経済発展に貢献することを目的に、ブラジルとパラグアイの各道人会から、それぞれ1名の技術研修生を受け入れ、高度専門技術に関する研修を実施し、北海道と移住国との架け橋の役割を担う人材の育成を図った。

〈技術研修員〉

ブラジル：瑞慶覧 ヴェロニカ 幸江

期 間：平成25年6月～平成26年3月

受 入 先：北海道建築設計監理株式会社（建築設計）

パラグアイ：水本 なつえ

期 間：平成25年6月～平成26年3月

受 入 先：学校法人宮島北海道ファッション専門学校（服飾技術）



建築現場を視察する瑞慶覧さん



コンテストに入賞した水本さん

## 3 国際協力情報の収集・提供

### 国際協力情報紙「であい」の発行

国際協力や開発途上国についての理解を深めてもらうため、ハイエックや道内国際交流・協力団体の事業・活動などを紹介する国際協力情報紙「であい」を、年3回、各2,000部発行し、道内外の国際交流・協力団体、道内の市町村、道内大学などに配布した。

各号の主な記事（敬称略）

夏季号 VOL.69

◇特集：スウェーデンと日本の高校生の交流◇NGO・NPOなどの活躍：J.WORKS ◇地域の国際交流：国際交流会 in 苫小牧市立拓勇小学校 ◇平成24年度「多文化共生ワークショップ in 函館」避難所運営ゲームから防災を学ぼう（▽函館市）◇「ODA 政策会議」北海道で初の開催（▽札幌市）◇さっぽろ留学生日記：「きっかけは母国の台風被害 人々の生活を良くするための研究がしたい」（フィリピン共和国 ジェラミ ヴィリャジェゴ ディマピリス 北海道大学大学院工学研究院）

秋季号 VOL.70

◇特集：留学生地域交流事業 in 幌加内

◇私の国際協力活動日記：マダガスカルに派遣されてから、帰国後・・・（林 さゆり）◇カルチャーナイト2013@ハイエック（▽札幌市）◇第4回「日中韓ユースフォーラム」札幌で開催（▽札幌市）◇大沼ラムサール国際シンポジウム（▽七飯町）◇さっぽろ留学生日記：「ドラえもん大好き！衛星からマップデータを分析、初期消火に役立てる研究を行う」（インドネシア共和国 ニナ ユリアンティ 北海道大学大学院工学研究院）◇ハイエック会員 入会へのお願い

春季号 VOL.71

◇高校生が見たラオス～高校生・アジアの架け橋養成事業 ◇さっぽろ研修員・留学生日記：北海道出身海外移住者子弟留学生（ブラジル連邦共和国 嶋田ブルーノ静也）、北海道海外技術研修員（パラグアイ共和国 水本 なつえ、ブラジル連邦共和国 瑞慶覧ヴェロニカ幸江）◇北海道外国訪問団受入事業、アルゼンチン共和国から6名の青年交流団 ◇NGO・NPOなどの活躍：ヌサンタラ札幌インドネシア文化交流会（NSI）◇ロシア料理講習会（▽旭川市）◇平成25年度国際交流 in 積丹町（▽積丹町）◇国際交流会 in 当別町立弁華別中学校（▽当別町）◇国際フェスタ in とかち（▽帯広市）



資料

2014年度 収支予算

平成26年度正味財産増減予算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合 計
	地域国際化 推進事業	国際協力 推進事業	共 通	小 計		
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
受取会費	0	0	6,750,000	6,750,000	6,750,000	13,500,000
受取会費	0	0	6,750,000	6,750,000	6,750,000	13,500,000
受取補助金	85,949,000	10,168,000	0	96,117,000	0	96,117,000
受取北海道補助金	85,699,000	10,168,000	0	95,867,000	0	95,867,000
受取民間助成金	250,000	0	0	250,000	0	250,000
受取負担金	1,676,000	0	0	1,676,000	0	1,676,000
受取負担金	1,676,000	0	0	1,676,000	0	1,676,000
事業収益	486,000	13,710,000	0	14,196,000	0	14,196,000
北方圏誌収益	486,000	0	0	486,000	0	486,000
JICA 研修事業収益	0	13,710,000	0	13,710,000	0	13,710,000
特定資産運用収益	5,500,000	0	0	5,500,000	1,000	5,501,000
特定資産運用収益	5,500,000	0	0	5,500,000	1,000	5,501,000
雑収益	390,000	0	0	390,000	10,000	400,000
雑収益	390,000	0	0	390,000	10,000	400,000
経常収益計	94,001,000	23,878,000	6,750,000	124,629,000	6,761,000	131,390,000
(2) 経常費用						
事業費	102,691,000	24,077,000	0	126,768,000	0	126,768,000
役員報酬	4,050,000	0	0	4,050,000	0	4,050,000
給料手当	38,032,000	8,220,000	0	46,252,000	0	46,252,000
福利厚生費	6,632,000	1,497,000	0	8,129,000	0	8,129,000
臨時雇用費	1,724,000	0	0	1,724,000	0	1,724,000
会議費	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	7,200,000	5,769,000	0	12,969,000	0	12,969,000
通信運搬費	3,111,000	60,000	0	3,171,000	0	3,171,000
備品費	30,000	0	0	30,000	0	30,000
減価償却費	160,000	199,000	0	359,000	0	359,000
消耗品費	719,000	320,000	0	1,039,000	0	1,039,000
修繕費	20,000	0	0	20,000	0	20,000
印刷製本費	1,070,000	45,000	0	1,115,000	0	1,115,000
燃料費	10,000	16,000	0	26,000	0	26,000
食糧費	825,000	257,000	0	1,082,000	0	1,082,000
使用料	4,328,000	501,000	0	4,829,000	0	4,829,000
手数料	1,168,000	3,991,000	0	5,159,000	0	5,159,000
保険料	328,000	187,000	0	515,000	0	515,000
広告宣伝費	368,000	0	0	368,000	0	368,000
委託料	15,686,000	616,000	0	16,302,000	0	16,302,000
諸謝金	1,418,000	1,739,000	0	3,157,000	0	3,157,000
交際費	538,000	30,000	0	568,000	0	568,000
負担金	13,118,000	0	0	13,118,000	0	13,118,000
助成金	2,000,000	0	0	2,000,000	0	2,000,000
公課費	156,000	630,000	0	786,000	0	786,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合 計
	地域国際化 推進事業	国際協力 推進事業	共 通	小 計		
管理費	0	0	0	0	7,874,000	7,874,000
役員報酬	0	0	0	0	1,350,000	1,350,000
給料手当	0	0	0	0	2,216,000	2,216,000
退職給付費用	0	0	0	0	576,000	576,000
福利厚生費	0	0	0	0	550,000	550,000
会議費	0	0	0	0	45,000	45,000
旅費交通費	0	0	0	0	295,000	295,000
通信運搬費	0	0	0	0	203,000	203,000
減価償却費	0	0	0	0	54,000	54,000
消耗品費	0	0	0	0	51,000	51,000
印刷製本費	0	0	0	0	25,000	25,000
食糧費	0	0	0	0	50,000	50,000
使用料	0	0	0	0	1,108,000	1,108,000
手数料	0	0	0	0	184,000	184,000
保険料	0	0	0	0	13,000	13,000
広告宣伝費	0	0	0	0	82,000	82,000
委託料	0	0	0	0	600,000	600,000
諸謝金	0	0	0	0	420,000	420,000
交際費	0	0	0	0	20,000	20,000
負担金	0	0	0	0	5,000	5,000
公課費	0	0	0	0	27,000	27,000
経常費用計	102,691,000	24,077,000	0	126,768,000	7,874,000	134,642,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,690,000	△ 199,000	6,750,000	△ 2,139,000	△ 1,113,000	△ 3,252,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 8,690,000	△ 199,000	6,750,000	△ 2,139,000	△ 1,113,000	△ 3,252,000
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,690,000	△ 199,000	6,750,000	△ 2,139,000	△ 1,113,000	△ 3,252,000
一般正味財産期首残高						461,187,111
一般正味財産期末残高						457,935,111
II 指定正味財産増減の部						
一般正味財産への振替						0
当期指定正味財産増減額						0
指定正味財産期首残高						0
指定正味財産期末残高						0
III 正味財産期末残高						457,935,111

(注)

- 1 地域国際化推進事業の福利厚生費のうち専務理事福利厚生費は 620,000 円、使用料のうち行政財産使用料は 2,289,000 円。
- 2 法人会計・福利厚生費のうち専務理事福利厚生費は 207,000 円、使用料のうち行政財産使用料は 763,000 円。

# 2013年度 収支決算

## 平成 25 年度正味財産増減計算書内訳表

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合 計
	地域国際化 推進事業	国際協力 推進事業	共 通	小 計		
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
受取会費	0	0	7,096,000	7,096,000	7,096,000	14,192,000
受取会費	0	0	7,096,000	7,096,000	7,096,000	14,192,000
受取補助金等	91,710,725	11,377,207	0	103,087,932	0	103,087,932
受取北海道補助金	88,423,879	11,377,207	0	99,801,086	0	99,801,086
受取民間助成金	3,286,846	0	0	3,286,846	0	3,286,846
受取負担金	1,700,000	0	0	1,700,000	0	1,700,000
受取負担金	1,700,000	0	0	1,700,000	0	1,700,000
事業収益	416,599	14,980,093	0	15,396,692	939,852	16,336,544
北方圏誌収益	416,599	0	0	416,599	0	416,599
研修事業収益	0	14,980,093	0	14,980,093	939,852	15,919,945
特定資産運用収益	5,441,840	0	0	5,441,840	259	5,442,099
特定資産運用収益	5,441,840	0	0	5,441,840	259	5,442,099
雑収益	552,156	0	0	552,156	78,581	630,737
雑収益	552,156	0	0	552,156	78,581	630,737
経常収益計	99,821,320	26,357,300	7,096,000	133,274,620	8,114,692	141,389,312
(2) 経常費用						
事業費	106,967,456	26,438,683	0	133,406,139	0	133,406,139
役員報酬	4,026,750	0	0	4,026,750	0	4,026,750
給料手当	35,919,185	4,757,841	0	40,677,026	0	40,677,026
福利厚生費	6,627,118	1,341,743	0	7,968,861	0	7,968,861
臨時雇用費	136,484	2,850,112	0	2,986,596	0	2,986,596
旅費交通費	9,535,063	5,958,870	0	15,493,933	0	15,493,933
通信運搬費	1,803,421	63,780	0	1,867,201	0	1,867,201
減価償却費	422,456	269,832	0	692,288	0	692,288
備品費	0	497,900	0	497,900	0	497,900
消耗品費	900,224	1,646,207	0	2,546,431	0	2,546,431
印刷製本費	828,281	25,005	0	853,286	0	853,286
燃料費	25,395	0	0	25,395	0	25,395
食糧費	1,052,528	358,973	0	1,411,501	0	1,411,501
使用料	6,756,104	455,446	0	7,211,550	0	7,211,550
手数料	2,099,684	4,189,990	0	6,289,674	0	6,289,674
保険料	199,580	166,100	0	365,680	0	365,680
広告宣伝費	537,600	0	0	537,600	0	537,600
委託費	14,639,445	616,000	0	15,255,445	0	15,255,445
諸謝金	1,359,116	2,606,729	0	3,965,845	0	3,965,845
交際費	463,679	23,772	0	487,451	0	487,451
負担金	15,984,652	42,500	0	16,027,152	0	16,027,152
助成金	3,531,074	0	0	3,531,074	0	3,531,074
公課費	119,617	567,883	0	687,500	0	687,500



(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合 計
	地域国際化 推進事業	国際協力 推進事業	共 通	小 計		
管理費	0	0	0	0	8,114,692	8,114,692
役員報酬	0	0	0	0	1,342,250	1,342,250
給料手当	0	0	0	0	2,174,570	2,174,570
退職給付費用	0	0	0	0	560,390	560,390
福利厚生費	0	0	0	0	577,636	577,636
会議費	0	0	0	0	22,188	22,188
旅費交通費	0	0	0	0	322,450	322,450
通信運搬費	0	0	0	0	205,062	205,062
減価償却費	0	0	0	0	140,818	140,818
消耗品費	0	0	0	0	61,581	61,581
食糧費	0	0	0	0	260,904	260,904
使用料	0	0	0	0	1,029,237	1,029,237
手数料	0	0	0	0	318,307	318,307
保険料	0	0	0	0	11,461	11,461
広告宣伝費	0	0	0	0	92,000	92,000
委託費	0	0	0	0	449,448	449,448
諸謝金	0	0	0	0	415,750	415,750
交際費	0	0	0	0	59,640	59,640
負担金	0	0	0	0	50,000	50,000
公課費	0	0	0	0	21,000	21,000
経常費用計	106,967,456	26,438,683	0	133,406,139	8,114,692	141,520,831
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 7,146,136	△ 81,383	7,096,000	△ 131,519	0	△ 131,519
基本財産評価損益等	0	0		0	0	0
特定資産評価損益等	0	0		0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0		0	0	0
評価損益等計	0	0		0	0	0
当期経常増減額	△ 7,146,136	△ 81,383	7,096,000	△ 131,519	0	△ 131,519
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0		0	0	
固定資産除却損	0	26,392	0	26,392	0	26,392
経常外費用計	0	26,392	0	26,392	0	26,392
当期経常外増減額	0	△ 26,392	0	△ 26,392	0	△ 26,392
当期一般正味財産増減額	△ 7,146,136	△ 107,775	7,096,000	△ 157,911	0	△ 157,911
一般正味財産期首残高						461,180,524
一般正味財産期末残高						461,022,613
II 指定正味財産増減の部						
一般正味財産への振替	0	0		0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0		0	0	0
指定正味財産期首残高						0
指定正味財産期末残高						0
III 正味財産期末残高						461,022,613

## 平成 25 年度貸借対照表

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	62,000	76,404	△ 14,404
預金	965,788	2,139,598	△ 1,173,810
未収金	335,086	3,910,086	△ 3,575,000
仮払金	0	15,000	△ 15,000
貯蔵品・商品	73,647	41,160	32,487
流動資産合計	1,436,521	6,182,248	△ 4,745,727
2. 固定資産			
特定資産			
国際交流事業資産	411,707,157	411,680,613	26,544
退職給付引当資産	4,791,311	4,230,921	560,390
特定資産合計	416,498,468	415,911,534	586,934
その他固定資産			
事業調整資金	7,528,212	7,086,000	442,212
運営調整資金	39,551,386	36,251,386	3,300,000
什器備品	1,317,167	2,176,665	△ 859,498
電話加入権	518,845	518,845	0
その他固定資産合計	48,915,610	46,032,896	2,882,714
固定資産合計	465,414,078	461,944,430	3,469,648
資産合計	466,850,599	468,126,678	△ 1,276,079
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	994,750	1,399,682	△ 404,932
預り金	41,925	1,315,551	△ 1,273,626
流動負債合計	1,036,675	2,715,233	△ 1,678,558
2. 固定負債			
退職給付引当金	4,791,311	4,230,921	560,390
固定負債合計	4,791,311	4,230,921	560,390
負債合計	5,827,986	6,946,154	△ 1,118,168
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	461,022,613	461,180,524	△ 157,911
正味財産合計	461,022,613	461,180,524	△ 157,911
負債及び正味財産合計	466,850,599	468,126,678	△ 1,276,079

## 2013年度 来訪者

国名	年月日	肩書	氏名(敬称略)	来訪目的等
ブラジル	2013年4月12日	北海道海外移住者子弟留学生	嶋田・ブルーノ・静也	表敬訪問
韓国	2013年4月16日	在札幌大韓民国総領事館 領事	劉 泰和	表敬訪問
ロシア	2013年5月13日	ハバロフスク地方博物館 総館長	ニコライ・ルーバン	表敬訪問
スウェーデン	2013年5月13日	ヒンメルスタルンズ高等専門学校 学生	ペル・ニルソン	表敬訪問
スウェーデン	2013年5月13日	ヒンメルスタルンズ高等専門学校 学生	ジュニファー・ビルグレン	表敬訪問
フィンランド	2013年5月22日	ビジネスオウル 国際コーディネーター	内田 貴子	表敬訪問
ブラジル	2013年6月4日	北海道海外技術研修員	瑞慶覧・幸江・ヴェロニカ	表敬訪問
パラグアイ	2013年6月4日	北海道海外技術研修員	水本 なつえ	表敬訪問
韓国	2013年6月4日	慶尚南道国際通商課 課長	金 宋淵 他2名	表敬訪問
ブラジル	2013年6月24日	パラマ日伯文化連合会 名誉会長	嶋田 巧 他1名	表敬訪問
アメリカ	2013年7月2日	合気護身術第大東流愛好家	テリー・スタントン 他2名	表敬訪問
中国	2013年9月27日	滝川市国際交流員	呉 玲	表敬訪問
ブラジル	2013年10月28日	昭和56年度移住者子弟留学生	佐々木・細谷・ジュリア	表敬訪問
モンゴル	2013年10月29日	モンゴル工業・農牧業省 作物生産政策実施・調整局長	T. レンチンセンゲー	表敬訪問
モンゴル	2013年10月29日	モンゴル工業・農牧業省 作物生産政策実施・調整係長	R. バトゾリク	表敬訪問
フィンランド	2013年10月31日	駐日フィンランド大使館 大使	マヌ・ヴィルタモ	表敬訪問
中国	2013年11月18日	中国社会科学院世界経済・政治研究所 副所長	王 徳迅	表敬訪問
アルゼンチン	2014年1月31日	北海道外国訪問団 団長	太田 正雄 他5名	表敬訪問
フィンランド	2014年2月3日	国際雪と氷の彫刻協会 会長	ユハニ・リルベリ	基調講演
アメリカ	2014年2月5日	七飯町役場 国際交流員	ベンジャミン・ヘイドック	表敬訪問
韓国	2014年2月7日	韓国外国語大学校日本語大学 学長	崔 在喆	表敬訪問
中国	2014年3月26日	黒竜江省外事弁公室日本処 処長	丹 碩 他1名	表敬訪問
カナダ	2014年3月26日	北海道国際交流推進員	ヨービ・メルケサディック	表敬訪問



# 公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター定款

## 第1章 総 則

- (名 称) 第1条 この法人は、公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター（略称「ハイエック（H I E C C）」）と称する。
- (事 務 所) 第2条 この法人は、主たる事務所を北海道札幌市中央区北3条西7丁目に置く。

## 第2章 目的及び事業

- (目 的) 第3条 この法人は、北海道における国際活動の総合的、かつ、中核的な拠点として、世界各国との国際交流や国際協力活動などを通じて北海道の国際化の推進を図ることにより、豊かで活力ある地域社会を実現し、もって、北海道の発展に寄与することを目的とする。
- (事 業) 第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 国際交流の推進
  - (2) 国際相互理解の推進
  - (3) 国際協力の推進
  - (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## 第3章 会 員

- (法人の構成員) 第5条 この法人は、この法人の目的及び事業に賛同して入会した個人又は団体であって、次条の規定によりこの法人の会員となった者をもって構成する。
- (1) 個人会員
    - ① 一般会員 次の②、③及び④以外の個人
    - ② 学生等会員
    - ③ 主婦（夫）等会員
    - ④ シニア会員
  - (2) 法人等会員
- 2 前項に定める会員の要件並びに会員の入会及び退会に関し、必要な事項は、総会において定める入会及び退会規程（以下、「入会・退会規程」という。）で定める。
- 3 第1項の会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）上の社員とする。
- (会員の資格の取得) 第6条 この法人の会員になろうとする者は、入会・退会規程に定めるところにより会長に入会の申込みをし、その承認を受けなければならない。
- (経費の負担) 第7条 この法人の活動に必要な経費に充てるため、会員は、次の年会費を納めなければならない。
- (1) 個人会員
    - ① 一般会員 1口 5,000円 1口以上
    - ② 学生等会員 1口 2,000円 1口以上
    - ③ 主婦（夫）等会員 1口 2,000円 1口以上
    - ④ シニア会員 1口 2,000円 1口以上
  - (2) 法人等会員 1口 10,000円 1口以上
- (任 意 退 会) 第8条 会員は、会長に入会・退会規程で定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。
- (除 名) 第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。
- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
  - (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
  - (3) その他除名すべき正当な事由のあるとき。
- (会員資格の喪失) 第10条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。
- (1) 第7条の支払い義務を2年以上履行しなかったとき。
  - (2) 総会員が同意したとき。
  - (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

## 第4章 総 会

- (構成) 第11条 総会は、すべての会員をもって構成する。  
2 前項の総会をもって、法人法上の社員総会とする。
- (権限) 第12条 総会は、次の事項について決議する。  
(1) 会員の除名  
(2) 理事及び監事の選任又は解任  
(3) 理事及び監事の報酬等の額  
(4) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認  
(5) 定款の変更  
(6) 解散及び残余財産の処分  
(7) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項
- (開催) 第13条 総会は、通常総会として毎年度事業終了後3月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。
- (招集) 第14条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。  
2 総会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。
- (議長) 第15条 総会の議長は、会長がこれに当たる。ただし、会長に事故があるときは、出席した理事の中から総会において選出された者がこれに当たる。
- (議決権) 第16条 総会における議決権は、会員1名につき1個とする。
- (決議) 第17条 総会の決議は、総会員の過半数が出席し、出席した会員の過半数をもって行う。  
2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総会員の3分の2以上に当たる多数をもって行う。  
(1) 会員の除名  
(2) 監事の解任  
(3) 定款の変更  
(4) 解散  
(5) その他法令で定められた事項
- (議事録) 第18条 総会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成する。  
2 前項の議事録には、議長のほか、出席した会員又は理事のうちから総会において選出された議事録署名人2名以上が議事録に記名押印する。

## 第5章 役 員

- (役員設置) 第19条 この法人に、次の役員を置く。  
(1) 理事 25名以上33名以内  
(2) 監事 2名以内  
2 理事のうち、1名を会長、10名以内を副会長、1名を専務理事とする。  
3 前項の会長をもって法人法上の代表理事とし、専務理事をもって同法第91条第1項第2号に規定する業務執行理事とする。
- (役員選任) 第20条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。  
2 会長、副会長及び専務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- (理事の職務及び権限) 第21条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。  
2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、専務理事は、理事会において別に定めることにより、この法人の業務を分担執行する。  
3 副会長は、会長を補佐する。  
4 会長及び専務理事は、毎事業年度毎に4箇月を超える間隔で2回自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。
- (監事の職務及び権限) 第22条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。  
2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。
- (役員任期) 第23条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。  
2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了の時までとする。

3 理事又は監事は、第19条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお、理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員の解任) 第24条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(役員の報酬等) 第25条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、専務理事に対しては、総会において別に定める額の範囲内で、総会において定める役員報酬等規程に従って算定した額を報酬として支給することができる。

2 役員には、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。

## 第6章 理 事 会

(構 成) 第26条 この法人に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権 限) 第27条 理事会は、次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 会長、副会長及び専務理事の選定及び解職

(開催及び招集) 第28条 理事会は、会長が招集する。ただし、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、専務理事が理事会を招集する。

(議 長) 第29条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。ただし、会長に事故があるときは、出席した理事の中から理事会において選出された者がこれに当たる。

(決 議) 第30条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、法人法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議 事 録) 第31条 理事会の議決については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第7章 顧 問

(顧 問) 第32条 この法人に、任意の機関として、顧問10名以内を置くことができる。

2 顧問は、理事会の同意を得て会長が委嘱し、会長の諮問に応じ意見を述べるすることができる。

3 顧問の任期には、第23条第1項の規定を準用する。この場合において、これらの規定中「理事及び監事」とあるのは「顧問」と読み替えるものとする。

4 顧問は、無報酬とする。ただし、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。

## 第8章 附 属 機 関

(附 属 機 関) 第33条 北海道における国際交流活動の原点となった北方圏構想の精神と成果を将来にわたり引継いでいくため、附属機関として北方圏センターを置く。

2 北方圏センターに、センター長を置く。

3 センター長は会長の兼務とし、専務理事がセンター長の職務を補佐する。

4 センターの組織及び運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

## 第9章 資 産 及 び 会 計

(国際交流事業資産) 第34条 この法人に、第4条に規定する公益事業を行うために、国際交流事業資産を置く。

2 前項の資産は、これを処分することができない。ただし、事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会及び総会の承認を経て、取崩し、公益事業の費用に充てることができる。

(資産の管理) 第35条 前条に定めるもののほか、この法人の資産の管理について必要な事項は、理事会の決議を経て、会長が別に定める。

(事業年度) 第36条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算) 第37条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。



- (事業報告及び決算) 第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。
- (1) 事業報告
  - (2) 事業報告の附属明細書
  - (3) 貸借対照表
  - (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
  - (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
  - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、通常総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。
- 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、会員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
- (1) 監査報告
  - (2) 理事及び監事の名簿
  - (3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
  - (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

## 第10章 定款の変更及び解散

- (定款の変更) 第39条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。
- (解散) 第40条 この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。
- (公益認定の取消等に伴う贈与) 第41条 この法人が公益認定の取消の処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人である場合を除く。）には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消の日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下、「認定法」という。）第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。
- (残余財産の帰属) 第42条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、認定法第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第11章 事務局

- (設置等) 第43条 この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。
- 2 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

## 第12章 補 則

- (委任) 第44条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の決議を経て会長が別に定める。
- (公告の方法) 第45条 この法人の公告は、電子公告により行う。
- 2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法による。

## 附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という。）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 この法人の最初の代表理事は札幌市厚別区もみじ台西7丁目6番5号南山英雄、業務執行理事は高橋了とする。
- 3 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第36条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 4 この定款施行のときに変更前の社団法人北方圏センター定款第6条第2号に規定する特別会員であった者は、第5条第3項の規定にかかわらず、法人法上の社員とする。

## 北海道姉妹都市・友好提携自治体一覧

自治体名称	相手自治体名	提携年月
北海道	カナダ・アルバータ州	1980. 9
	中国・黒竜江省	1986. 6
	アメリカ・マサチューセッツ州	1990. 2
	ロシア・サハリン州	1998. 6
	韓国・釜山	2005.12
	韓国・慶尚南道	2006. 6
	韓国・ソウル特別市	2010.10
	タイ・チェンマイ	2013. 2
	アメリカ・ハワイ州	2014. 1
札幌市	ポートランド アメリカ・オレゴン州	1959.11
	ミュンヘン ドイツ・バイエルン州	1972. 8
	瀋陽 中国・遼寧省	1980.11
	ノボシビルスク ロシア・ノボシビルスク州	1990. 6
	大田広域市 韓国	2010.10
旭川市	ブルーミントン・ノーマル アメリカ・イリノイ州	1962. 1
	ユジノサハリンスク ロシア・サハリン州	1967.11
	水原 韓国・京畿道	1989.10
	哈爾濱 中国・黒竜江省	1995.11
釧路市	バーナビー カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1965. 9
	ホルムスク ロシア・サハリン州	1975. 8
紋別市	ニューポート アメリカ・オレゴン州	1966. 4
	コルサコフ ロシア・サハリン州	1991. 1
	フェアバンクス アメリカ・アラスカ州	1991. 2
小樽市	ナホトカ ロシア・沿海地方	1966. 9
	ダニーデン ニュージーランド	1980. 7
	ソウル特別市江西区 韓国	2009. 2
帯広市	スワード アメリカ・アラスカ州	1968. 3
	朝陽 中国・遼寧省	2000.11
	マディソン アメリカ・ウィスコンシン州	2006.10
千歳市	アンカレッジ アメリカ・アラスカ州	1969. 4
	ノルウェー ブスケルー県・コングスベルグ市	1988. 8
	中国 吉林省・長春市	2004.10

自治体名称	相手自治体名	提携年月
北見市	エリザベス アメリカ・ニュージャージー州	1969. 6
	ポロナイスク ロシア・サハリン州	1972. 8
	晋州 韓国・慶尚南道	1985. 5
	バーヘッド カナダ・アルバータ州	1991. 7
名寄市	カワーサレイクス (旧リンゼイ) カナダ・オンタリオ州	1969. 8
	ドーリンスク ロシア・サハリン州	1991. 3
留萌市	ウラン・ウデ ロシア・ブリヤート自治共和国	1972. 7
稚内市	ネベリスク ロシア・サハリン州	1972. 9
	バギオ フィリピン	1973. 3
	コルサコフ ロシア・サハリン州	1991. 7
根室市	ユジノサハリンスク ロシア・サハリン州	2001. 9
	シトカ アメリカ・アラスカ州	1975.12
富良野市	セベロクリリスク ロシア・サハリン州	1994. 1
	シュラートミンク オーストリア・シュタイヤーマルク州	1977. 2
江別市	グレシヤム アメリカ・オレゴン州	1977. 5
苫小牧市	ネーピア ニュージーランド	1980. 4
	秦皇島 中国・河北省	1998. 9
夕張市	撫順 中国・遼寧省	1982. 4
函館市	ハリファックス カナダ・ノバ・スコシア州	1982.11
	ウラジオストク ロシア・沿海地方	1992. 7
	レイク・マコーリー オーストラリア・ニューサウスウェールズ州	1992. 7
	ユジノサハリンスク ロシア・サハリン州	1997. 9
	天津 中国	2001.10
石狩市	高陽 韓国・京畿道	2011. 8
	キャンベルリバー カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1983.10
	ワニノ ロシア・ハバロフスク地方	1993. 6
	彭州 中国・四川省	2000.10
岩見沢市	ボカテロ アメリカ・アイダホ州	1985. 5
	キャンビー アメリカ・オレゴン州	1989. 7
網走市	ポートアルバーニ カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1986. 2

自治体名称	相手自治体名	提携年月
室蘭市	ノックスビル アメリカ・テネシー州	1991. 1
	日照 中国・山東省	2002. 7
芦別市	シャーロットタウン カナダ・プリンスエドワード島州	1993. 7
滝川市	スプリングフィールド アメリカ・マサチューセッツ州	1993. 8
深川市	アボッツフォード カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1998. 9
赤平市	三陟 韓国・江原道	1997. 7
	汨羅 中国・湘南省	1999. 9
士別市	ゴールバーン オーストラリア・ニューサウスウェールズ州	1999. 7
登別市	広州 中国・広東省	2002. 5
	ファボー・ミッドフュン デンマーク	2007. 6
	サイパン アメリカ領・北マリアナ諸島	2006.11
伊達市	レイク・カウチン カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1989.10
	漳州 中国・福建省	2010. 4
恵庭市	テイマル ニュージーランド	2008. 2
倶知安町	サンモリッツ スイス・グラウビュンデン州	1964. 3
積丹町	シーサイド アメリカ・オレゴン州	1966. 5
蘭越町	ザールフェルデン オーストリア・ザルツブルグ州	1969.10
遠軽町	バストス ブラジル・サンパウロ州	1972.10
	モアラン・アン・モンターニュ フランス・ジユラ県	1998. 5
美瑛町	ザールバッハ オーストリア・ザルツブルグ州	1973. 6
池田町	ペンティクトン カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1977. 5
別海町	バッサーブルク ドイツ・バイエルン州	1979. 5
上砂川町	スパークウッド カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1980. 9
佐呂間町	パーマ アメリカ・アラスカ州	1980.10
白老町	ケネル カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1981. 7
	クラレンス オーストラリア・タスマニア州	1982. 2
天塩町	ホーム アメリカ・アラスカ州	1984. 4
	トマリ ロシア・サハリン州	1992. 7
上川町	ロッキー・マウンテン・ハウス カナダ・アルバータ州	1984. 6
鹿追町	ストニー・プレイン カナダ・アルバータ州	1985. 8
上富良野町	カムローズ カナダ・アルバータ州	1985. 9
陸別町	ラコーム カナダ・アルバータ州	1986. 7
当別町	レクサンド スウェーデン・ダーラナ県	1987.10

自治体名称	相手自治体名	提携年月
新ひだか町	レキシントン アメリカ・ケンタッキー州	1988. 7
余市町	イースト・ダンバートン イギリス・スコットランド	1997.11
遠別町	キャッスルガー カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1989. 6
東川町	キャンモア カナダ・アルバータ州	1989. 7
	ルーイエナ町 ラトビア・ヴァルミエラ州	2008. 7
芽室町	トレーシー アメリカ・カリフォルニア州	1989. 8
興部町	ステットラー カナダ・アルバータ州	1990. 6
足寄町	ウェタスキウイン カナダ・アルバータ州	1990. 9
猿払村	オジヨールスキイ ロシア・サハリン州	1990.12
せたな町	ハンフォード アメリカ・カリフォルニア州	1991. 8
占冠村	アスペン アメリカ・コロラド州	1991. 8
本別町	ミッチェル オーストラリア・ビクトリア州	1991. 9
壮瞥町	ケミヤルヴィ フィンランド・ラップランド県	1993. 5
美深町	アシククラフト カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1994. 7
沼田町	ポートハーディ カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1994. 9
奈井江町	ハウスヤルビ フィンランド	1995. 4
鷹栖町	ゴールドコースト オーストラリア・クィーンズランド州	1997.11
豊頃町	サマーランド カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州	1996. 6
広尾町	フログン ノルウェー・アーケシュフース県	1996.10
枝幸町	ソレフテオ スウェーデン・ベステルノルランド県	1996.11
清里町	モトエカ ニュージーランド・タスマン地区	1997. 9
美幌町	ケンブリッジ ニュージーランド・ワイパ地区	1997.10
七飯町	コンコード アメリカ・マサチューセッツ州	1997.11
湧別町	ホワイトコート カナダアルバータ州	1998. 7
	セルウイン ニュージーランド	2000. 7
下川町	ケノーラ カナダ・オンタリオ州	2001. 2
弟子屈町	南丘 中国・河南省	2005. 9
	泗水 中国・山東省	2005. 1
	濱州一濱減区 中国・山東省	2005. 1
剣淵町	パルカマヨ区 ペルー・フニン県	2011. 7
津別町	二水郷 台湾・彰化県	2012.10

## 道内外国公館

公 館 名	住 所	電 話 番 号	開 設 年 月
在 札 幌 ア メ リ カ 合 衆 国 館 在 総 領 事	〒064-0821 札幌市中央区北1条西28丁目 URL : http://sapporo.usconsulate.gov/	011-641-1115~7	昭和27.6
駐 札 幌 大 韓 民 国 館 駐 総 領 事	〒060-0002 札幌市中央区北2条西12丁目1-3 URL : http://jpn-sapporo.mofat.go.kr/kor	011-218-0288	昭和41.6
在 札 幌 ロ シ ア 連 邦 館 在 総 領 事	〒064-0914 札幌市中央区南14条西12丁目2-5 URL : http://www1.odn.ne.jp/ruscons_sapporo	011-561-3171~2	昭和42.10
	函館支部 〒040-0054 函館市元町14-1	0138-24-8201	平成15.9
駐 札 幌 中 華 人 民 共 和 国 館 駐 総 領 事	〒064-0913 札幌市中央区南13条西23丁目5-1 URL : http://www.chn-consulate-sapporo.or.jp	011-563-5563	昭和55.9
在 札 幌 オ ー ス ト ラ リ ア 館 在 領 事	〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目2 札幌センタービル17階 URL : http://www.business.australia.or.jp/sapporo	011-242-4381	平成4.12
カ ナ ダ 政 府 所 札 幌 通 商 事 務 所	〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目 日興ビル5階 URL : http://www.canadainternational.gc.ca/	011-281-6565	平成17.12

## 道内名誉領事館

領 事 館 名	住 所	代 表 者	開 設 年 月
在 札 幌 イ ン ド ネ シ ア 共 和 国 館 名 誉 領 事	〒060-0042 札幌市中央区大通西7丁目3-1 北海道ガス(株)内 011-207-2100	名誉領事 佐々木 正丞	昭和44.12
在 札 幌 フ ィ ン ラ ン ド 共 和 国 館 名 誉 領 事	〒064-0913 札幌市中央区南13条西11丁目2-32 (株)アークス内 011-530-6012	名誉領事 横山 清	昭和48.8
在 札 幌 ベ ル ギ ー 王 国 館 名 誉 領 事	〒002-8074 札幌市北区あいの里4条9丁目1-1 (株)ロイズコンフェクト内 011-778-3642	名誉領事 山崎 泰博	昭和55.3
在 札 幌 ド イ ツ 連 邦 共 和 国 館 名 誉 領 事	〒060-0041 札幌市中央区大通東1丁目2 011-251-1111	名誉領事 高島 英也	昭和55.5
在 札 幌 フ ィ リ ピ ン 共 和 国 館 名 誉 領 事	〒063-0841 札幌市西区八軒1条西1丁目2-10 建由ビル4階 011-614-8090	名誉領事 戸部 謙一	昭和58.6
在 札 幌 チ リ 共 和 国 館 名 誉 領 事	〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目1 加森ビル3 011-232-0639	名誉領事 加森 公人	平成6.6
在 札 幌 ノ ル ウ ェ ー 王 国 館 名 誉 領 事	〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目1 プレスト1・7 011-231-1322	名誉領事 横浜 慶彦	平成8.1
在 札 幌 カ ナ ダ 館 名 誉 領 事	〒064-0820 札幌市中央区大通西26丁目1-3 ボセイドン円山2階、カナダプレイス 011-643-2520	名誉領事 井原 慶児	平成8.11
在 札 幌 ス ペ イ ン 国 館 名 誉 領 事	〒060-0003 札幌市中央区北3条西3丁目1-5 シグマビル9F 北海道マーケティング総研株式会社内 011-219-7721	名誉領事 堀 達也	平成11.1
在 札 幌 リ ト ア ニ ア 共 和 国 館 名 誉 領 事	〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル2F 011-221-3939	名誉領事 藤井 英勝	平成16.7
在 札 幌 メ キ シ コ 合 衆 国 館 名 誉 領 事	〒004-0879 札幌市清田区平岡9条1-1-6 011-883-8400	名誉領事 星野 恭亮	平成18.9
在 札 幌 ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド 館 名 誉 領 事	〒001-0038 札幌市北区北38条西2丁目1-26 011-802-9272	名誉領事 青木 雅典	平成18.10
在 札 幌 カ ン ボ ジ ア 王 国 館 名 誉 領 事	〒060-0004 札幌市中央区北4条西11丁目 SOCビルディング 2F 011-231-6547	名誉領事 滝沢 靖六	平成19.6
在 札 幌 フ ラ ン ス 館 名 誉 領 事	〒060-0042 札幌市中央区大通西9丁目3-33 ジブラルタ生命札幌ビル3F 011-281-5559	名誉領事 似鳥 昭雄	平成19.11

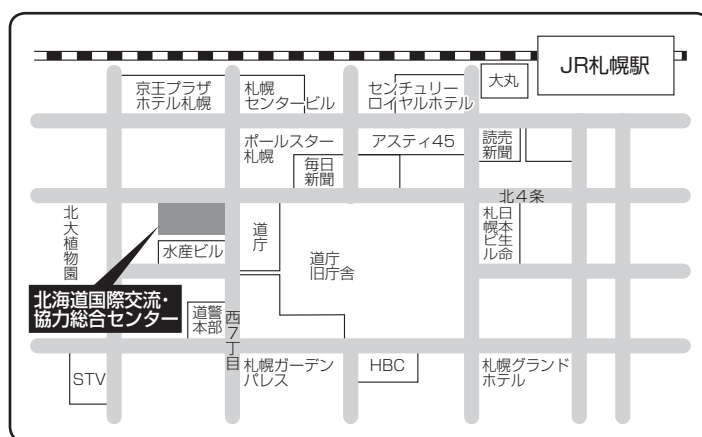


領事館名	住所	代表者	開設年月
在旭川ラトビア共和国 名誉領事館	〒070-0037 旭川市7条通13丁目60-19 0166-25-5880	名誉領事 井下 佳和	平成19.11
在札幌カザフスタン共和国 名誉領事館	〒001-0924 札幌市北区新川4条17丁目1-32 011-762-7705	名誉領事 大本 衛	平成22. 2
在釧路ベトナム社会主義共和国 名誉領事館	〒085-0847 釧路市大町1-1-10 大町ビル4階 0154-44-1040	名誉領事 中島 太郎	平成22.11
在釧路ミクロネシア連邦 名誉領事館	〒084-0905 釧路市鳥取南5丁目12-5 サイタスビル2階 0154-61-5151	名誉領事 栗林 延次	平成22.12
在札幌スウェーデン王国 名誉領事館	〒060-0908 札幌市東区北8条東1丁目2-1 北海道郵便通送株式会社内 011-731-6133・1	名誉領事 加藤 欽也	平成23. 4
在札幌グアテマラ共和国 名誉領事館	〒001-0019 札幌市北区北19条西3丁目 なごやビル名越税務会計士事務所内 011-716-7412・94	名誉領事 名越 隆雄	平成23. 4
在旭川オーストリア共和国 名誉領事館	〒070-8018 旭川市神居8条1丁目1-27 旭川トヨペット(株)内 0166-60-4545	名誉領事 吉田 裕	平成23. 7
在札幌アイルランド 名誉領事館	〒007-0846 札幌市東区北46条東17丁目2-23 ディンプレックス・ジャパン内 011-783-8011	名誉領事 笠間 聖司	平成24.11
在札幌デンマーク王国 名誉領事館	〒060-8676 札幌市中央区大通西4丁目1 北海道銀行内 011-233-1256	名誉領事 堰八 義博	平成25. 2

## 在日大使館

大使館名	住所	電話番号
アルゼンチン共和国大使館	〒106-0046 東京都港区元麻布2-14-14 URL : <a href="http://www.embargentina.or.jp/index-jp.html">http://www.embargentina.or.jp/index-jp.html</a>	03-5420-7101
ブラジル連邦共和国大使館	〒107-8633 東京都港区北青山2-11-12 URL : <a href="http://www.brasemb.or.jp/">http://www.brasemb.or.jp/</a>	03-3404-5211
カナダ大使館	〒107-8503 東京都港区赤坂7-3-38 URL : <a href="http://www.canadainternational.gc.ca/japan-japon/">http://www.canadainternational.gc.ca/japan-japon/</a>	03-5412-6200
中華人民共和国大使館	〒106-0046 東京都港区元麻布3-4-33 URL : <a href="http://www.china-embassy.or.jp/jpn/">http://www.china-embassy.or.jp/jpn/</a>	03-3403-3388
デンマーク王国大使館	〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町29-6 URL : <a href="http://www.ambtokyo.um.dk/ja">http://www.ambtokyo.um.dk/ja</a>	03-3496-3001
フィンランド大使館	〒106-8561 東京都港区南麻布3-5-39 URL : <a href="http://www.finland.or.jp">http://www.finland.or.jp</a>	03-5447-6000
ドイツ連邦共和国大使館	〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-10 URL : <a href="http://www.tokyo.diplo.de/ja/Startseite.html">http://www.tokyo.diplo.de/ja/Startseite.html</a>	03-5791-7700
大韓民国大使館	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-10 URL : <a href="http://jpn-tokyo.mofat.go.kr/jpn/index.jsp">http://jpn-tokyo.mofat.go.kr/jpn/index.jsp</a>	03-3452-7611
モンゴル国大使館	〒150-0047 東京都渋谷区神山町21-4 URL : <a href="http://www.mn-economy.or.jp/">http://www.mn-economy.or.jp/</a>	03-3469-2088
ノルウェー王国大使館	〒106-0047 東京都港区南麻布5-12-2 URL : <a href="http://www.norway.or.jp/">http://www.norway.or.jp/</a>	03-6408-8100
パラグアイ共和国大使館	〒102-0082 東京都千代田区一番町2-2 一番町第2T Gビル7階 URL : <a href="http://www.embapar.jp/">http://www.embapar.jp/</a>	03-3265-5271
ロシア連邦大使館	〒106-0041 東京都港区麻布台2-1-1 URL : <a href="http://www.russia-emb.jp/">http://www.russia-emb.jp/</a>	03-3583-4224
スウェーデン大使館	〒106-0032 東京都港区六本木1-10-3-100 URL : <a href="http://www.swedenabroad.com/Start_4324.aspx">http://www.swedenabroad.com/Start_4324.aspx</a>	03-5562-5050
英国大使館	〒102-8381 東京都千代田区一番町1 URL : <a href="http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja/">http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja/</a>	03-5211-1100
アメリカ合衆国大使館	〒107-8420 東京都港区赤坂1-10-5 URL : <a href="http://japan.usembassy.gov/">http://japan.usembassy.gov/</a>	03-3224-5000
欧州連合代表部	〒102-0075 東京都千代田区三番町9-15 ヨーロッパハウス URL : <a href="http://www.deljpn.ec.europa.eu/">http://www.deljpn.ec.europa.eu/</a>	03-3239-0441

(平成26年3月31日現在)



# 2014 年報

---

発行年月 平成26(2014)年7月  
発行・編集 公益社団法人  
**北海道国際交流・協力総合センター**  
印刷 旭プリント株式会社

---



公益社団法人  
**北海道国際交流・協力総合センター**  
**H I E C C / ハイエック**

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目(道庁別館12階)  
TEL:011-221-7840 FAX:011-221-7845  
URL:<http://www.hiecc.or.jp> E-mail:[hiecc@hiecc.or.jp](mailto:hiecc@hiecc.or.jp)